

教育に係るアセスメントの結果について

－ 令和 7(2025)年度 －

教育推進機構

アセスメント・ポリシーに基づく教育の質保証について

本学は、令和4（2022）年度からの第4期中期目標・中期計画期間（6年間）における中期計画に「各研究科の専門性に応じた大学院教育を体系的に実施する」ことを掲げ、これを達成するための評価指標として、大学院教育を確実に展開するため、令和4年度にアセスメント・ポリシーを策定、令和5年度からアセスメント・チェックを実施し、教育課程の評価・改善に取り組むこととした。

このため、令和4（2022年）年度に、教育推進機構教育戦略室会議においてアセスメント・ポリシー及びアセスメント・ポリシーの運用について検討後、教育推進機構会議、役員会及び教育研究評議会の審議を経て策定された。また、各学部・研究科及び教育推進機構単位のアセスメント・ポリシーについても策定することとし、本学が中期計画指標に掲げる研究科全体に係るアセスメント・ポリシー及び各研究科単位のアセスメント・ポリシーを策定するとともに、各学部及び教育推進機構に係るアセスメント・ポリシー及び各部局単位のアセスメント・ポリシーについても策定し、本学のアセスメント体制を整備したものである。

本学のアセスメント・ポリシーは、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー（DP））に定める学位取得の要件に基づき、教育目標の到達度、学生の満足度などの学修成果に関してアセスメント（測定・評価）を実施し、各教育課程の有効性について検証を行うとともに、その結果等を教育改革、教育方法の改善及び学修支援等に活用することをもって、本学における教学マネジメントに基づく「学修者本位の教育の実現」に向けた教育の質保証を推進することを目的としている。

今回実施した教育に係るアセスメントは、令和6（2024）年度の教育活動や令和7（2025）年度に開講する授業科目におけるカリキュラム・チェックの実施結果等について調査を行い、各部局等が行ったアンケートの調査結果等も含め、教育推進機構において全学的観点から検証した結果を、報告書として纏めたものである。

目 次

I	実施体制等	1
II	アセスメントの結果について	
	項目 1 入学状況、進学・留年・退学の状況、卒業や進路の状況	3
	項目 2 教育活動、研究活動及び社会との連携等の状況	9
	項目 3 カリキュラム・チェックの実施結果	11
	項目 4 成績評価を含めた授業の開講状況	24
	項目 5 学生支援の状況	32
	項目 6 自主的学習環境の整備状況	36
	項目 7 アンケート調査	38
III	参考資料	
	・弘前大学アセスメント・ポリシー	50
	・アセスメント・ポリシーの運用に関する要項	54

I 実施体制等

1 実施単位

アセスメントの単位は、学部においては、機関レベル（大学全体）、教育課程レベル（各学部）、科目レベル（各授業）の3区分としている。また、研究科においても、機関レベル（大学全体）、教育課程レベル（各研究科）、科目レベル（各授業）の3区分としている。

2 実施体制

アセスメントは、機関レベルでは教育推進機構が実施、教育課程レベル及び科目レベルでは各学部及び研究科等がそれぞれ実施する体制としている。

3 実施方法

アセスメントは、以下について、アセスメント・ポリシーに規定するアセスメント・チェックリストにより実施する。

- (1) 入学、進学、留年、退学等及び卒業・修了及び進路の状況
- (2) 教育活動、研究活動及び社会との連携等の状況
- (3) カリキュラム・チェック
- (4) 授業の開講、成績評価の状況
- (5) 学生支援の状況
- (6) 学修環境及び研究環境の整備状況
- (7) 入学時（志望動機等）アンケート調査
- (8) 在学時（授業評価、生活状況、進路希望等）アンケート調査
- (9) 卒業時（大学の満足度等）及び終了時（研究指導の満足度）のアンケート調査
- (10) 卒後（修了後）3年経過時（第79回）DPの有効性、就職先企業等に対する本学卒業（修了）生の評価等）アンケート調査
- (11) その他アセスメントに有効な取組等

なお、上記(1)及び(2)については、業務の効率化の観点から、国立大学法人弘前大学組織評価実施規程により実施された組織評価の結果等を利用して行うこととしている。

アセスメントの結果は、教育推進機構会議に報告された後、教育推進機構長が調査結果について全学的見地から検証を行い、評価結果を取りまとめた上で学長に報告される。学長は、改善すべき事項があったと判断する場合、教育推進機構に改善計画を取りまとめさせ、該当する学部・研究科等に改善計画に基づいた措置を講ずることを命じ、また、学部等は講じた措置の結果について、最終的に学長に報告される。

II アセスメントの結果について

項目1 入学状況、進学・留年・退学の状況、卒業や進路の状況

1 目的及び実施方法

弘前大学アセスメント・ポリシーに基づき、令和5（2023）事業年度の組織評価の結果（令和6年9月17日役員会報告）及び国立大学法人弘前大学組織評価実施要項に定める評価指標により、各学部・研究科の卒業認定・学位授与の方針による教育課程の有効性について検証を行い、もって、本学の教育改革、教育方法の改善及び学習支援等に活用することを目的としてアセスメントを実施した。

2 検証及び評価

組織評価実施要項に定める評価指標を利用し、入学、進学、留年及び卒業、休学及び退学、進路の状況について、令和6年度と令和5年度との経年比較等により検証・評価した。

(1) 入学等の状況

各学部における前期日程及び後期日程における志願倍率は、人文社会科学部 4.2（前年度 4.2）、教育学部 3.4（3.4）、医学部医学科 8.1（6.9）、医学部保健学科 3.4（2.2）、医学部心理支援科学科 3.1（2.4）、理工学部 3.3（3.8）、農学生命科学部 5.1（4.1）倍となっている。

志願倍率は、「国立大学学部系統別志願倍率」等を基準値として、以下のとおり評価した。なお、基準値は人文社会科学部 3.8、教育学部 3.5、医学部医学科 4.9、医学部保健学科 2.7、医学部心理支援科学科 2.6、理工学部 3.8、農学生命科学部 4.0 倍である。

基準値比較では、人文社会科学部、医学部医学科及び農学生命科学部は前年度に引き続き「良好」、医学部保健学科及び医学部心理支援科学科は前年度「おおむね良好」から1段階引き上げ「良好」、理工学部は前年度「良好」から1段階下がり「おおむね良好」、教育学部は「おおむね良好」となっており、全ての学部において、維持または改善されていると評価できる。

評価	部局
良好（基準値以上）	人文社会科学部、医学部医学科、医学部保健学科、医学部心理支援科学科、農学生命科学部
おおむね良好（基準値未満だが近似値）	教育学部、理工学部
不十分（基準値未満で近似値にない）	該当なし

各研究科における入学定員充足率は、人文社会科学研究科 75.0%、教育学研究科 111.1%、医学研究科 95.0%、保健学研究科博士前期課程 106.7%・博士後期課程 108.3%、理工学研究科博士前期課程 106.7%・博士後期課程 125.0%、農学生命科学研究科 90.0%、地域社会研究科 66.7%、地域共創科学研究科 90.0%であった。

充足率 90%を基準値とし、90%を満たしていれば「良好」、満たしていなければ「不十分」として、以下のとおり評価した。

評価	部局
良好	教育学研究科、医学研究科、保健学研究科、理工学研究科、地域共創科学研究科
不十分	人文社会科学研究科、農学生命科学研究科、地域社会研究科

また、各研究科の収容定員充足率は、人文社会科学研究科 121.9%、教育学研究科 97.2%、医学研究科 125.0%、保健学研究科博士前期課程 106.7%・博士後期課程 147.2%、理工学研究科博士前期課程 108.8%・博士後期課程 94.4%、農学生命科学研究科 109.0%、地域社会研究科 172.2%、地域共創科学研究科 106.7%であった。

充足率が 90%を満たしていれば「良好」、充足率が 90%を満たしていないまたは 110%を上回っている場合は「不十分」として、以下のとおり評価した。

評価	部局
良好	教育学研究科、理工学研究科、農学生命科学研究科、地域共創科学研究科
不十分	人文社会科学研究科、医学研究科、保健学研究科、地域社会研究科

(2) 進学状況

学部卒業者の大学院進学率は、以下のとおり。組織評価では調査項目としていないため、組織調査で利用している弘前大学 IR データに基づき検証した。

なお、医学部医学科はほとんどが臨床研修に進むため、調査から除外した。

学 部		人 社	教 育	保 健	心 理	理 工	農 生
進学率 (%)	令和 6 年度	3.3	7.2	9.0	70.0	54.1	28.2
	令和 5 年度	2.9	5.4	12.2	88.9	43.9	25.8

上記の進学率が昨年度より増加していれば「良好」、昨年度と同程度（▲1.0%以内）の場合は「おおむね良好」、昨年度より減少し同程度にもない場合は「不十分」として、以下のとおり評価した。

評価	部局
良好	人文社会科学部、教育学部、理工学部、農学生命科学部
おおむね良好	該当なし
不十分	医学部保健学科

(3) 留年及び卒業の状況

留年の状況については、学部の留年率は以下のとおり。組織評価では調査項目としていないため、組織調査で利用している弘前大学 IR データに基づき検証した。

なお、留年者数は標準修業年限を超えて在学する学生数として、長期履修学生は除いている。

学 部		人 社	教 育	医	保 健	心 理	理 工	農 生
留年率 (%)	令和 6 年度	2.7	1.0	4.3	1.8	1.0	4.5	3.8
	令和 5 年度	2.1	2.7	3.9	1.2	2.4	3.8	3.2

留年率が昨年度より減少していれば「良好」、昨年度と同程度（▲1.0%以内）の場合は「おおむね良好」、昨年度より増加し同程度にもない場合は「不十分」として、以下のとおり評価した。

評価	部 局
良好	教育学部、医学部心理支援科学科
おおむね良好	人文社会科学部、医学部医学科、医学部保健学科、理工学部、農学生命科学部
不十分	該当なし

卒業の状況については、学部の卒業率は以下のとおり。長期履修制度を活用した在学生の有無などを勘案し、大学院を除いて、学部における修業年限内での卒業について検証した。

なお、医学部医学科はほとんどが臨床研修に進むため、経年比較のみの参考値とし、

学 部		人 社	教 育	医	保 健	心 理	理 工	農 生
修業年限での卒業率 (%)	令和 6 年度	88.3	86.2	75.0	89.6	81.8	80.4	86.9
	令和 5 年度	89.3	89.7	76.5	92.2	90.0	86.8	88.1

卒業率が昨年度より増加していれば「良好」、昨年度と同程度（▲1.0%以内）の場合は「おおむね良好」、昨年度より減少し同程度にもない場合は「不十分」として、以下のとおり評価した。

評価	部 局
良好	該当なし
おおむね良好	人文社会科学部
不十分	教育学部、医学部保健学科、医学部心理支援科学科、理工学部、農学生命科学部

(4) 休学及び退学の状況

休学の状況について、各学部及び研究科の休学率は、以下のとおり。

休学の理由は、学部では進路再考（26.4%）、病気（20.9%）、一身上の都合（11.0%）、大学院では職務復帰・専念（38.6%）、一身上の都合（12.5%）、家庭の事情（11.0%）の順となっている。なお、留学を理由とした休学は、調査対象から除いた。

<学 部>

学 部		人 社	教 育	医	保 健	心 理	理 工	農 生
休学率（%）	令和6年度	1.4	1.4	0.5	0.8	0.0	1.6	2.4
	令和5年度	1.4	1.4	0.5	0.8	0.0	1.6	2.4

<大学院>

研究科		人 社	教 育	医	保 健	理 工	農 生	地 社	地 共
休学率（%）	令和6年度	10.3	0.0	21.0	9.4	5.9	0.9	22.6	3.1
	令和5年度	4.3	2.9	17.6	6.6	1.7	3.8	35.3	2.9

休学率が昨年度より減少していれば「良好」、昨年度と同程度（▲1.0%以内）の場合は「おおむね良好」、昨年度より増加し同程度にもない場合は「不十分」として、以下のとおり評価した。

評価	部局
良好	（学部）教育学部、医学部保健学科、医学部心理支援科学科、理工学部、農学生命科学部 （大学院）教育学研究科、農学生命科学研究科、地域社会研究科
おおむね良好	（学部）人文社会科学部、医学部医学科、（大学院）地域共創科学研究科
不十分	（大学院）人文社会科学研究科、医学研究科、保健学研究科、理工学研究科、

また、退学の状況について、各学部及び研究科の退学率は以下のとおり。

退学の理由は、学部では進路変更（49.3%）、修学意欲の喪失（15.5%）、一身上の都合（12.7%）の順となっている。また、大学院では就職（27.8%）、一身上の都合（16.7%）、家庭の事情（16.7%）の順となっている。

<学 部>

学 部		人 社	教 育	医	保 健	心 理	理 工	農 生
退学率 (%)	令和 6 年度	1.4	1.0	0.5	0.24	0.0	2.3	0.8
	令和 5 年度	0.8	0.9	0.4	0.4	2.4	1.5	2.1

<大学院>

研究科		人 社	教 育	医	保 健	理 工	農 生	地 社	地 共
退学率 (%)	令和 6 年度	5.1	0.0	1.0	1.4	1.4	0.0	6.5	3.1
	令和 5 年度	4.3	2.9	1.4	2.5	5.1	4.8	8.8	1.4

退学率が昨年度より減少している、または実績がない場合は「良好」、昨年度と同程度（▲1.0%以内）の場合は「おおむね良好」、昨年度より増加し同程度にもない場合は「不十分」として、以下のとおり評価した。

評価	部局
良好	(学部) 医学部保健学科、医学部心理支援科学科、農学生命科学部 (大学院) 教育学研究科、医学研究科、保健学研究科、理工学研究科、農学生命科学研究科、地域社会研究科
おおむね良好	(学部) 人文社会科学部、教育学部、医学部医学科、理工学部 (大学院) 人文社会科学研究科
不十分	(大学院) 地域共創科学研究科

(5) 進路（就職）の状況

就職希望者における就職率は、以下のとおり。

組織評価では、就職・進学率としているため、令和 6 年度卒業・修了者の進路状況調査票（令和 7 年 5 月 1 日現在）の数値に基づき検証した。

なお、医学部医学科は、ほとんどが臨床研修に進むため調査から除外した。

<学 部>

学 部		人 社	教 育	保 健	心 理	理 工	農 生
就職率 (%)	令和 6 年度	97.1	100.0	100.0	100.0	99.3	100.0
	令和 5 年度	99.6	98.6	100.0	100.0	96.7	98.7

<大学院>

研究科		人 社	教 育	医	保 健	理 工	農 生	地 社	地 共
就職率 (%)	令和 6 年度	100.0	100.0	100.0	100.0	99.6	100.0	100.0	96.3
	令和 5 年度	100.0	100.0	100.0	100.0	99.6	100.0	100.0	96.3

※保健学研究科は、博士前期課程・博士後期課程とも 100.0%。理工学研究科は、博士前期課程 99.1%・博士後期課程 100%で上記就職率はその平均としている。

就職率が昨年度より増加しているまたは当該比率 100%の場合は「良好」、昨年度と同程度（▲1.0%以内）の場合は「おおむね良好」、昨年度より減少し同程度にもない場合は「不十分」として、以下のとおり評価した。

評価	部局
良好	(学部)教育学部、医学部保健学科、医学部心理支援科学科、理工学部、農学生命科学部 (大学院)人文社会科学研究科、教育学研究科、医学研究科、保健学研究科、農学生命科学研究科、地域社会研究科
おおむね良好	(学部)(大学院)理工学研究科
不十分	(学部)人文社会科学部 (大学院)地域共創科学研究科

項目2 教育活動、研究活動及び社会との連携等の状況

本調査項目については、令和6事業年度組織評価の結果等に基づき検証した。

組織評価の目的は、「当該評価を通じてそれぞれの教育研究活動等を明らかにし、もって本学の教育研究等の質の向上及び機能強化の推進に資すること」である。

組織評価では、部局への意見聴取や評価基準に基づいて、教育、研究、社会との連携に関する活動状況等について、それぞれ5段階（1～5点。3点「取組等が順調に行われている。」が中間値）での評価が行われている。

評価結果では、全ての学部及び研究科において、3点以上の評価となっており、本学の教育、研究及び社会連携等の活動が順調に行われていると評価できる。

なお、組織評価の結果については、評価のコメントと併せて各学部等にフィードバックされている。

各活動分野に関する、主な評価コメントは以下のとおり。

【教育】

- ・全国の人文系学部との連携を進めている点は評価できる。一方、人文系の価値を高めるには、人文系の研究者と連携するよりも、理系の研究者との連携をすすめることが重要ではないか。（人社）
- ・地域志向教員卒の導入、入試制度の見直しなどの改革、副専攻プログラムの開発など教育分野における取り組みは高く評価できる。人口減少社会において教員養成は重要であり、先を見据えた改革に取り組んでいただきたい。（教育）
- ・学部独自の「なんでも相談」は良い試みかと思う。教員だけでなく、学生の教育・研究指導に直接携わらない職員の方を配置することもよいと考える。（農生）
- ・学内進学者、他大学からの進学者や留学生も含め、研究科の特色を示して入学者の確実な獲得が期待される。そのためにも修了後の進路や企業などでの活躍を強調することも必要と考える。（地共）

【研究】

- ・若干教員研究業績数が減少傾向であるとはいえ、引き続き高い研究レベルを維持し、多数の寄付・共同研究講座の誘致に成功するなど、特筆すべき成果がみられる。（医学）
- ・保工連携を目指した理工学研究科との情報交換が進展し、さらに保工医連携を目指した情報交換会が開催されるなど、広く学内の異分野連携を通じた学部研究の活性化が模索されており、今後の進展が期待される。（保健）
- ・第4期中期目標中期計画に定めた論文数を大きく超えている点は評価できる。J-PEAKSのKPIである国際共著論文数やTop10%論文数への貢献も期待したい。（理工）
- ・共創研究については、院生が参加したり成果が報道で取り上げられたりするなど、社会的なインパクトも出つつある。今後は、共創研究の成果をもとに外部資金の獲得に繋げてほしい。（地共）

【社会連携】

- ・教職大学院学部新卒大学院生のほぼ全員が教員採用試験に合格し、学部の教員就職率及び教職就職者に占める正規採用割合が上昇するなど、引き続き優れた教育体制が維持されている。学部教員による地元自治体・企業への貢献数が前年度より増加し、地域への研究等の成果還元・浸透が図られていることがうかがわれる。(教育)
- ・医学研究科（及び附属病院）が本県に存在し多くの医療人材を育成していること自体が大きな社会貢献、地域連携となっていると思う。(医学)
- ・地域との連携事業等についてマスコミ等により積極的に情報発信されている。看護師等を目指す県内出身学生が県外に流出する傾向が続いていることについて、事業者側や地域側のどこに要因があるか、保健系特有の事情を探っていただきたい。(保健)
- ・地域の課題解決・発掘に向けた人材の育成が順調に進んでいる。専任教員が外部委員等として専門知識を提供し、国内各地の地域課題解決に向けた注目すべき貢献がみられた。特に農業農村生活への社会実装に関する研究と社会活動は、現在全国の地域が抱える共通の重要課題であり、今後の進展と全国へのさらなる拡がりを期待したい。
(地社)

＜組織評価の評点＞

活動状況	人社	教育	医学	保健	理工	農生	地社	地共
教育	4	4	5	3	4	3	3	4
研究	3	3	4	3	4	4	3	3
社会連携	3	3	5	3	4	4	4	3

項目3 カリキュラム・チェックの実施結果

1 調査対象

令和7(2025)年度に開講予定の学部・大学院の全授業科目

2 実施時期

令和7(2025)年3月にカリキュラム(シラバス)・チェックを実施し、実施結果及び各学部等におけるカリキュラム・チェックの実施形態、実施時の問題点等を調査票により、7月31日までに提出

3 実施内容

本学の学部教育では、「カリキュラム・ポリシー(以下「CP」という。)」及び「ディプロマ・ポリシー(以下「DP」という。)」に3つの柱「見通す力」、「解決していく力」、「学び続ける力」を全学的共通ポリシーとして定め、さらに各学部において3つの柱に基づくポリシーを定めている。

令和6(2024)年度は、各授業の到達目標において全授業科目が各学部のポリシーに即した授業を実施しているか、適切な授業レベル(難易度)で構成されているかを確認した。授業科目の難易度については、教育推進機構において以下のとおりレベル1～5まで定めている。

- ・レベル1・・・ 学士課程教育における本格的な学修を開始するための準備段階(高校までの既習知識を振り返った上で、これから始まる大学での学びを展望するような科目)
- ・レベル2・・・ 学士課程教育の初期において学ぶべき、基礎的・基本的な事柄を学ぶ段階(大学での学びの準備が整ったことを前提に、初歩的・入門的なことを学ぶような科目)
- ・レベル3・・・ 基礎・基本の習得を前提として、さらに深く学ぶ段階(大学での既習知識を活かして、発展的・応用的なことを学ぶような科目)
- ・レベル4・・・ 学士課程教育の最終段階として高度な学識を学ぶ段階(卒業研究や専門職資格を得るための最終段階にあたるような科目)
- ・レベル5・・・ 大学院において学術及び専門職的実践について研究し、高い専門性を学んでいく段階(学生の研究活動と関連して、高度な専門知識・技能を自律的に学んでいく科目)

なお、大学院のカリキュラム・チェックについては、研究科毎のDPに項目毎に付番を設定し、シラバス上で対応するDPを全授業科目で示した上で、到達目標とのチェックを実施している。

また、シラバス・チェックについても、カリキュラム・チェックにあわせて効果的に実施し、各学部・研究科の自己評価委員会等において検証作業が行われている。

4 実施結果

各教育課程における各授業の到達目標は、全ての授業科目が CP、DP で求める 3 つの柱のいずれかに該当し実施されており、授業レベルについても、全ての授業科目が適切なレベルに設定されていると判断される。

また、法令で定める大学設置基準、教職課程認定基準、養成所指定規則等については、各教育課程で作成されているカリキュラム・マップや履修モデルから問題なく授業が構成されており、所要の要件を満たしている。

教養教育科目は、令和 4（2023）年度から授業科目群について見直しを行い、新たな構成となっている。

各研究科における各授業の到達目標は、全ての授業科目が設定された DP との整合性をもって実施されている。

なお、カリキュラム・チェックの実施にあたっては、定期的にシラバス作成に係る FD や説明会等を各組織が積極的に開催し、組織内での情報共有が図られている。また、各組織の自己評価委員等が各授業の到達目標を確認し、記載内容に誤りがあった場合には授業担当教員に修正を依頼するなど、検証・改善作業を実施していることが調査票により確認された。

シラバス・チェックについては、最初に教務課において全ての授業科目について入力漏れや記載の適切性の確認を行い、その後、各学部・研究科において自己評価委員会等がカリキュラム・チェックを実施している。不具合等があった場合は、当該授業担当教員に改善させる等しており、また、ほとんどの部局において、カリキュラム・チェックの結果と併せて各教授会等で結果について報告されている。

なお、シラバスの作成・チェックについては、まず、授業担当教員が関係法令や作成要領を踏まえて作成することが大前提であるが、これをチェックするための各部局等事務や自己評価委員会等でのチェック漏れを防ぐ工夫が必要である。この人為的ミスを防止するため、令和 3（2021）年 3 月に学務情報システムが改修され、入力必須項目に対して入力されずに登録を行った場合は、エラーが表示されるように改善されている。

以下は各学部等における到達目標における CP/DP の対応及び科目難易度の構成の状況である。

表Ⅱ－１ 教養教育における CP/DP 及び難易度の構成

科目群	難易度	見通す力	解決していく力	学び続ける力	科目数
スタディスキル導入科目	レベル1		○	○	104
データサイエンス科目（基礎・数学）	レベル1	○	○		20
データサイエンス科目（発展・ビジネス）	レベル2	○	○	○	3
グローバル科目	レベル1 ～4	○	○	○	101
社会・文化	レベル1 ～2	○	○	○	59
自然・科学	レベル2, 4	○	○	○	45
人間・生命	レベル1 ～2	○	○	○	47
キャリア教育（基礎）	レベル1	○	○	○	11
キャリア教育（発展）	レベル2		○	○	2
キャリア教育（実践・デザイン）	レベル2 ～3		○	○	28
英語（Communication）	レベル2	○		○	204
英語（Academic Writing & Presentation、 Content & English Integrated Learning、 English for Global Communication、 English for Tests）	レベル3		○	○	5
多言語	レベル2 ～3	○		○	34
日本語	レベル2 ～3	○	○	○	14
合 計					677

※ 教養教育科目については、各科目群において対応する CP/DP 及び難易度を設定しており、対応する CP/DP に基づき、これに属する授業科目の到達目標を定めている。

表Ⅱ－２ 人文社会科学部における CP/DP 及び難易度の構成

学科等名：文化創生課程文化資源学コース

科目区分	CP / DP	対象科目数（累計）					科目数
		レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	計	
学部基本科目	見通す力	20	7	4	1	32	22
	解決していく力	12	3	3	0	18	
	学び続ける力	9	7	4	1	21	
学部専門科目	見通す力	0	44	22	2	68	67
	解決していく力	0	32	23	2	57	
	学び続ける力	0	35	16	4	55	

学科等名：文化創生課程多文化共生コース

科目区分	CP / DP	対象科目数（累計）					科目数
		レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	計	
学部基本科目	見通す力	15	0	0	0	15	15
	解決していく力	8	0	0	0	8	
	学び続ける力	5	0	0	0	5	
学部専門科目	見通す力	7	66	21	7	101	94
	解決していく力	1	45	18	5	69	
	学び続ける力	4	49	16	7	76	

学科等名：社会経営課程経済法律コース

科目区分	CP / DP	対象科目数（累計）					科目数
		レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	計	
学部基本科目	見通す力	14	0	0	0	14	14
	解決していく力	7	0	0	0	7	
	学び続ける力	5	0	0	0	5	
学部専門科目	見通す力	2	36	14	1	53	64
	解決していく力	0	24	12	2	38	
	学び続ける力	0	11	6	1	18	

学科等名：社会経営課程企業戦略コース

科目区分	CP / DP	対象科目数（累計）					科目数
		レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	計	
学部基本科目	見通す力	14	0	0	0	14	14
	解決していく力	7	0	0	0	7	
	学び続ける力	5	0	0	0	5	
学部専門科目	見通す力	7	21	18	3	49	50
	解決していく力	6	18	12	2	38	
	学び続ける力	1	1	9	3	14	

学科等名：社会経営課程地域行動コース

科目区分	CP / DP	対象科目数（累計）					科目数
		レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	計	
学部基本科目	見通す力	14	0	0	0	14	14
	解決していく力	7	0	0	0	7	
	学び続ける力	5	0	0	0	5	
学部専門科目	見通す力	5	32	8	0	45	47
	解決していく力	0	17	7	0	24	
	学び続ける力	1	16	6	0	23	

表Ⅱ－３ 教育学部におけるCP/DP及び難易度の構成

学科等名：学校教育教員養成課程

科目区分	CP / DP	対象科目数（累計）					科目数
		レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	計	
学部共通科目	見通す力	4	4	5	2	15	14
	解決していく力	3	3	6	2	14	
	学び続ける力	2	2	5	2	11	
専門教育科目	見通す力	68	197	166	28	459	422
	解決していく力	48	177	152	30	407	
	学び続ける力	34	114	120	23	291	
教職科目	見通す力	8	58	56	15	137	124
	解決していく力	2	37	59	17	115	
	学び続ける力	1	14	30	10	55	

学科等名：養護教諭養成課程

科目区分	CP / DP	対象科目数（累計）					科目数
		レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	計	
専門教育科目	見通す力	13	21	14	7	55	40
	解決していく力	7	14	17	9	47	
	学び続ける力	9	9	6	9	33	
教職科目	見通す力	0	5	7	4	16	15
	解決していく力	0	1	7	4	12	
	学び続ける力	0	1	2	4	7	

表Ⅱ－４ 医学部における CP/DP 及び難易度の構成

学科等名：医学科

科目区分	CP / DP	対象科目数（累計）					科目数
		レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	計	
専門基礎科目	見通す力	3	1	0	0	4	6
	解決していく力	1	0	0	0	1	
	学び続ける力	1	0	0	0	1	
専門科目 （コア科目）	見通す力	15	46	6	1	68	57
	解決していく力	2	6	1	0	9	
	学び続ける力	0	2	0	0	2	
専門科目 （演習・実習 科目）	見通す力	0	2	6	0	8	19
	解決していく力	0	8	19	4	31	
	学び続ける力	0	1	6	0	7	

学科等名：保健学科看護学専攻

科目区分	CP / DP	対象科目数（累計）					科目数
		レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	計	
専門共通科目	見通す力	4	5	2	1	12	11
	解決していく力	3	4	2	1	10	
	学び続ける力	0	2	1	1	4	
専門基礎科目	見通す力	0	9	7	0	16	13
	解決していく力	0	4	3	0	7	
	学び続ける力	0	1	1	0	2	
専門科目	見通す力	4	43	37	15	99	79
	解決していく力	3	28	32	15	78	
	学び続ける力	1	24	25	15	65	
卒業研究	見通す力	0	0	0	2	2	2
	解決していく力	0	0	0	2	2	
	学び続ける力	0	0	0	2	2	

学科等名：保健学科放射線技術科学専攻

科目区分	CP / DP	対象科目数（累計）					科目数
		レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	計	
専門共通科目	見通す力	4	5	2	1	12	12
	解決していく力	3	5	2	1	11	
	学び続ける力	0	2	1	1	4	
専門基礎科目	見通す力	2	7	11	0	20	22
	解決していく力	0	7	11	1	19	
	学び続ける力	1	7	10	0	18	
専門科目	見通す力	1	7	19	3	30	30
	解決していく力	1	9	19	4	33	
	学び続ける力	1	6	20	4	31	
卒業研究	見通す力	0	1	3	2	6	3
	解決していく力	0	1	3	2	6	
	学び続ける力	0	1	3	2	6	

学科等名：保健学科検査技術科学専攻

科目区分	CP / DP	対象科目数（累計）					科目数
		レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	計	
専門共通科目	見通す力	4	6	2	1	13	13
	解決していく力	3	6	2	1	12	
	学び続ける力	0	3	1	1	5	
専門基礎科目	見通す力	7	7	0	0	14	18
	解決していく力	8	3	0	0	11	
	学び続ける力	0	6	0	0	6	
専門科目	見通す力	0	29	8	4	41	69
	解決していく力	0	40	9	4	53	
	学び続ける力	0	0	17	5	22	
卒業研究	見通す力	0	0	0	2	2	2
	解決していく力	0	0	0	2	2	
	学び続ける力	0	0	0	2	2	

学科等名：保健学科理学療法学専攻

科目区分	CP / DP	対象科目数（累計）					科目数
		レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	計	
専門共通科目	見通す力	4	6	3	1	14	14
	解決していく力	3	6	3	1	13	
	学び続ける力	0	3	1	1	5	
専門基礎科目	見通す力	2	14	4	0	20	20
	解決していく力	1	10	3	0	14	
	学び続ける力	0	5	3	0	8	
専門科目	見通す力	3	10	26	3	42	38
	解決していく力	3	9	27	3	42	
	学び続ける力	2	10	20	3	35	
卒業研究	見通す力	0	0	0	1	1	1
	解決していく力	0	0	0	1	1	
	学び続ける力	0	0	0	1	1	

学科等名：保健学科作業療法学専攻

科目区分	CP / DP	対象科目数（累計）					科目数
		レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	計	
専門共通科目	見通す力	4	6	3	1	14	14
	解決していく力	3	6	3	1	13	
	学び続ける力	0	3	1	1	5	
専門基礎科目	見通す力	2	11	4	0	17	18
	解決していく力	1	10	4	0	15	
	学び続ける力	0	5	3	0	8	
専門科目	見通す力	2	14	10	3	29	29
	解決していく力	1	12	10	4	27	
	学び続ける力	1	1	2	3	7	
卒業研究	見通す力	0	0	1	1	2	2
	解決していく力	0	0	1	1	2	
	学び続ける力	0	0	1	1	2	

学科等名：心理支援科学科

科目区分	CP / DP	対象科目数（累計）					科目数
		レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	計	
専門基礎科目	見通す力	2	13	1	1	17	17
	解決していく力	1	9	1	1	12	
	学び続ける力	0	5	1	1	7	
専門応用科目	見通す力	5	32	19	4	60	56
	解決していく力	3	24	18	4	49	
	学び続ける力	2	9	11	3	25	
卒業研究	見通す力	0	0	2	2	4	3
	解決していく力	0	0	2	2	4	
	学び続ける力	0	0	2	2	4	

表Ⅱ－５ 理工学部におけるCP/DP及び難易度の構成

学科等名：数物科学科

科目区分	CP / DP	対象科目数（累計）					科目数
		レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	計	
専門基礎科目	見通す力	12	24	5	0	41	43
	解決していく力	6	25	4	0	35	
	学び続ける力	0	0	0	0	0	
専門応用科目	見通す力	1	6	31	2	40	50
	解決していく力	1	4	20	12	37	
	学び続ける力	0	1	5	10	16	
マネジメント科目	見通す力	2	2	4	2	10	7
	解決していく力	1	0	1	0	2	
	学び続ける力	2	0	1	1	4	
卒業研究	見通す力0	0	0	0	2	2	2
	解決していく力	0	0	0	2	2	
	学び続ける力	0	0	0	2	2	

学科等名：物質創成化学科

科目区分	CP / DP	対象科目数（累計）					科目数
		レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	計	
専門基礎科目	見通す力	5	5	0	0	10	10
	解決していく力	0	4	0	0	4	
	学び続ける力	0	0	0	0	0	
専門応用科目	見通す力	0	11	17	1	29	36
	解決していく力	0	14	10	1	25	
	学び続ける力	0	0	2	1	3	
マネジメント科目	見通す力	2	2	4	1	9	7
	解決していく力	1	0	2	0	3	
	学び続ける力	2	0	0	0	2	
卒業研究	見通す力	0	0	1	2	3	3
	解決していく力	0	0	1	2	3	
	学び続ける力	0	0	1	2	3	

学科等名：地球環境防災学科

科目区分	CP / DP	対象科目数（累計）					科目数
		レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	計	
専門基礎科目	見通す力	7	8	0	0	15	13
	解決していく力	3	6	0	0	9	
	学び続ける力	1	0	0	0	1	
専門応用科目	見通す力	1	15	21	0	37	47
	解決していく力	0	10	17	4	31	
	学び続ける力	0	5	5	1	11	
マネジメント科目	見通す力	2	2	4	1	9	7
	解決していく力	1	0	2	0	3	
	学び続ける力	2	0	0	0	2	
卒業研究	見通す力	0	0	0	2	2	2
	解決していく力	0	0	0	2	2	
	学び続ける力	0	0	0	2	2	

学科等名：電子情報工学科

科目区分	CP / DP	対象科目数（累計）					科目数
		レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	計	
専門基礎科目	見通す力	10	6	0	0	16	16
	解決していく力	6	3	0	0	9	
	学び続ける力	1	3	0	0	4	
専門応用科目	見通す力	0	10	19	1	30	35
	解決していく力	0	11	18	1	30	
	学び続ける力	0	2	4	0	6	
マネジメント科目	見通す力	2	2	4	2	10	7
	解決していく力	1	0	2	0	3	
	学び続ける力	2	0	1	1	4	
卒業研究	見通す力	0	0	0	2	2	2
	解決していく力	0	0	0	2	2	
	学び続ける力	0	0	0	2	2	

学科等名：機械科学科

科目区分	CP / DP	対象科目数（累計）					科目数
		レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	計	
専門基礎科目	見通す力	8	10	0	0	18	19
	解決していく力	6	10	0	0	16	
	学び続ける力	3	3	0	0	6	
専門応用科目	見通す力	1	16	28	2	47	47
	解決していく力	1	14	22	2	39	
	学び続ける力	0	4	15	0	19	
マネジメント科目	見通す力	2	2	4	2	10	7
	解決していく力	1	0	3	1	5	
	学び続ける力	2	0	1	0	3	
卒業研究	見通す力	0	0	0	2	2	2
	解決していく力	0	0	0	2	2	
	学び続ける力	0	0	0	2	2	

学科等名：自然エネルギー学科

科目区分	CP / DP	対象科目数（累計）					科目数
		レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	計	
専門基礎科目	見通す力	6	2	0	0	8	9
	解決していく力	1	3	0	0	4	
	学び続ける力	0	1	0	0	1	
専門応用科目	見通す力	4	19	15	2	40	41
	解決していく力	1	15	9	2	27	
	学び続ける力	1	2	6	2	11	
マネジメント科目	見通す力	2	2	4	1	9	7
	解決していく力	1	0	2	0	3	
	学び続ける力	2	0	0	0	2	
卒業研究	見通す力	0	0	0	2	2	2
	解決していく力	0	0	0	2	2	
	学び続ける力	0	0	0	2	2	

表Ⅱ－6 農学生命科学部におけるCP/DP及び難易度の構成

学科等名：生物学科

科目区分	CP / DP	対象科目数（累計）					科目数
		レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	計	
コア科目	見通す力	0	9	6	2	17	23
	解決していく力	0	4	5	2	11	
	学び続ける力	0	7	6	2	15	
専門基礎科目 ／専門科目	見通す力	2	36	44	4	86	84
	解決していく力	2	18	21	2	43	
	学び続ける力	0	9	18	3	30	

学科等名：分子生命科学科

科目区分	CP / DP	対象科目数（累計）					科目数
		レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	計	
コア科目	見通す力	0	10	6	3	19	18
	解決していく力	0	3	4	3	10	
	学び続ける力	0	6	4	2	12	
専門基礎科目 ／専門科目	見通す力	1	23	38	2	64	62
	解決していく力	1	13	19	1	34	
	学び続ける力	0	4	16	2	22	

学科等名：食料資源学科

科目区分	CP / DP	対象科目数（累計）					科目数
		レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	計	
コア科目	見通す力	0	8	9	1	18	19
	解決していく力	0	3	7	1	11	
	学び続ける力	0	1	3	1	5	
専門基礎科目 ／専門科目	見通す力	1	27	54	6	88	86
	解決していく力	1	14	36	4	55	
	学び続ける力	0	9	25	5	39	

学科等名：国際園芸農学科

科目区分	CP / DP	対象科目数（累計）					科目数
		レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	計	
コア科目	見通す力	0	11	2	1	14	14
	解決していく力	0	5	0	1	6	
	学び続ける力	0	5	1	1	7	
専門基礎科目 ／専門科目	見通す力	1	28	56	2	87	88
	解決していく力	1	15	30	1	47	
	学び続ける力	0	10	32	2	44	

学科等名：地域環境工学科

科目区分	CP / DP	対象科目数（累計）					科目数
		レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	計	
コア科目	見通す力	0	9	14	1	24	24
	解決していく力	0	3	2	1	6	
	学び続ける力	0	0	0	0	0	
専門基礎科目 ／専門科目	見通す力	1	22	30	6	59	61
	解決していく力	1	10	17	4	32	
	学び続ける力	0	8	10	4	22	

表Ⅱ－７ 人文社会科学部における CP/DP 及び難易度の構成

専攻名：人文社会科学専攻文化芸術コース

科目区分	対象科目数（累計）				科目数
	DP1	DP2	DP3	計	
専攻共通科目	1	3	3	7	3
専門科目	54	4	96	154	150

専攻名：人文社会科学専攻現代共生コース

科目区分	対象科目数（累計）				科目数
	DP1	DP2	DP3	計	
専攻共通科目	1	3	3	7	3
専門科目	69	4	81	154	150

専攻名：人文社会科学専攻政策科学コース

科目区分	対象科目数（累計）				科目数
	DP1	DP2	DP3	計	
専攻共通科目	1	3	3	7	3
専門科目	35	4	115	154	150

表Ⅱ－８ 教育学研究科における CP/DP 及び難易度の構成

専攻名：教職実践専攻

科目区分	対象科目数（累計）					科目数
	DP1	DP2	DP3	DP4	計	
専攻共通科目	106	108	110	110	434	113

表Ⅱ－９ 医学研究科における CP/DP 及び難易度の構成

専攻名：医科学専攻

科目区分	対象科目数（累計）				科目数
	DP1	DP2	DP3	計	
共通科目	20	12	1	33	26
専門科目	99	152	81	332	250

表Ⅱ－１０ 保健学研究科における CP/DP 及び難易度の構成

専攻名：保健学専攻（博士前期課程）

科目区分	対象科目数（累計）				科目数
	DP1	DP2	DP3	計	
保健学共通コア科目	9	8	9	26	9
専門科目	40	34	29	103	48
被ばく医療共通科目	3	3	1	7	3
被ばく医療専門科目	8	8	3	19	9
放射線看護高度看護 実践コース共通科目	6	7	4	17	7
放射線看護高度看護 実践コース専門科目	12	12	10	34	12

専攻名：保健学専攻（博士後期課程）

科目区分	対象科目数（累計）				科目数
	DP1	DP2	DP3	計	
共通科目	1	2	1	4	2
専攻必修科目	7	12	11	30	15
被ばく医療コース 共通科目	1	1	0	2	1

専攻名：心理支援科学専攻（修士課程）

科目区分	対象科目数（累計）					科目数
	DP1	DP2	DP3	DP4	計	
保健学共通コア科目	3	3	3	0	9	3
専門科目	17	9	12	2	40	19

表Ⅱ－１１ 理工学研究科における CP/DP 及び難易度の構成

専攻名：理工学専攻(博士前期課程)

科目区分	対象科目数（累計）					科目数
	DP1	DP2	DP3	DP4	計	
専門科目	121	121	67	5	314	122
専攻内共通科目	6	6	1	0	13	6
総合科目	5	5	1	0	11	5

専攻名：機能創成科学専攻（博士後期課程）

科目区分	対象科目数（累計）				科目数
	DP1	DP2	DP3	計	
必修科目	2	2	2	6	2
選択科目	48	48	48	144	48

専攻名：安全システム工学専攻（博士後期課程）

科目区分	対象科目数（累計）				科目数
	DP1	DP2	DP3	計	
必修科目	2	2	2	6	2
選択科目	50	50	50	150	50

表Ⅱ－１２ 農学生命科学研究科における CP/DP 及び難易度の構成

専攻名：農学生命科学専攻

科目区分	対象科目数（累計）				科目数
	DP1	DP2	DP3	計	
専攻共通科目	87	82	81	250	93
専門科目	68	42	55	165	103
弘大テーマ科目	1	0	0	1	1

表Ⅱ－１３ 地域共創科学研究科における CP/DP 及び難易度の構成

専攻名：地域リノベーション専攻

科目区分	対象科目数（累計）				科目数
	DP1	DP2	DP3	計	
地域共創科目	4	2	4	10	4
スキル科目	2	0	1	3	2
専攻科目	27	9	9	45	32
特別研究	8	8	8	24	8

専攻名：産業創成科学専攻

科目区分	対象科目数（累計）					科目数
	DP1	DP2	DP3	DP4	計	
地域共創科目	0	0	0	0	0	4
スキル科目	2	1	0	1	4	2
専攻科目	20	10	4	5	39	28
特別研究	8	8	8	8	32	8

表Ⅱ－１４ 地域社会研究科における CP/DP 及び難易度の構成

専攻名：地域社会専攻

科目区分	対象科目数（累計）			科目数
	DP1	DP2	計	
必修科目	44	40	84	59
選択科目	30	9	39	32

項目4 成績評価を含めた授業の開講状況

1 調査対象

各教育課程

2 調査方法

令和6(2024)年度に開講した全ての授業科目について、学務情報システムにより成績データ等を抽出し、授業科目名、開講期、開講曜日・時限等、成績入力教員名、履修者数、授業科目毎の成績分布データ、「秀」評価の取得率及び不可率のほか、調査に伴って実施した改善事項等について、教育課程毎に取り纏めた上で、9月19日を期限として提出を求めた。

3 実施内容

本学では、授業の評価を以下の評語並びに基準で評価することとしており、今回の調査に当たっては、成績評価について最上位評価の「秀」から不合格である「不可」までについて、授業科目毎に算出し、成績評価の状況等について検証した。

評価(GPA点)	評点	成績評価基準
秀(4)	:(100点～90点)	到達目標を達成し、特に優秀な成績を修めている。
優(3)	:(89点～80点)	到達目標を達成し、優秀な成績を修めている。
良(2)	:(79点～70点)	到達目標を達成し、良好な成績を修めている。
可(1)	:(69点～60点)	到達目標を最低限達成している。
不可(0)	:(59点～0点)	到達目標に達していない。

なお、これらの全学の成績評価の在り方は、教育推進機構が「成績評価のガイドライン」として策定し、学内に周知している。

4 実施結果

(1) 授業の開講状況

各教育課程の授業の開講数と履修状況について、学部・研究科が開講した科目数は、前期は学部1,569科目、大学院616科目、後期は学部1,414科目、大学院555科目であった。また、通年で開講した授業は学部89科目、大学院99科目であった。

また、各学部・大学院の前期と後期それぞれの開講数については、どちらか一方に大きく偏ることなくバランスよく開講されており、特に問題となる点は見当たらない。また、非常勤講師が担当した授業科目の比率も昨年度と同程度の状況となっており、特に問題となる点は見当たらなかった。

表Ⅱ-15 各学部・研究科における授業の開講状況数

学部 / 研究科	開 講 科 目 数				内非常勤
	前期	後期	通年	合計	
教養教育	408	278	1	687	163
人文社会科学部	282	307	9	598	48
教育学部	262	251	45	558	87
医学部医学科	45	39	0	84	0
医学部保健学科	193	198	1	392	5
医学部心理支援科学科	31	33	6	70	3
理工学部	214	198	3	415	16
農学生命科学部	134	110	24	268	18
学部 合計	1,569	1,414	89	3,072	340
人文社会科学研究科	60	35	0	95	0
教育学研究科	39	38	2	79	0
医学研究科	93	143	5	241	0
保健学研究科	35	32	10	77	0
理工学研究科	258	221	0	479	4
農学生命科学研究科	67	44	49	160	3
地域共創科学研究科	49	38	24	111	1
地域社会研究科	15	4	9	28	0
大学院 合計	616	555	99	1,270	8

※通年には保健学研究科「年度跨り」5科目及び農学生命科学部「担当教員ごとに異なる」6科目を含む。

履修人数別の開講状況に着目すると、学部では3,072科目中1,882科目（61.3%）、大学院では1,270科目中1,251科目（98.5%）の授業が30人未満のクラス単位で実施されており、十分に指導や配慮が行き届く授業体制になっていると判断できる。

なお、昨年度の調査では、教養教育について10人未満の授業が109科目開講されていたことから、教員の負担や非常勤講師の人件費等、合理性・経済性も含めた開講の必要性を、教養教育開発実践センター運営委員会において検証した結果、少人数での授業形態や開講科目数の妥当性・必然性について確認しており、令和6（2024）年度も126科目が開講されていた。

表Ⅱ-16 各学部・研究科における履修人数別科目

学部 / 研究科	開 講 科目数	履修人数別科目数					
		≥100	99-50	49-30	29-10	9-5	<5
教養教育	687	50	80	131	300	68	58
人文社会科学部	598	18	79	63	106	205	127
教育学部	558	21	35	22	234	132	114
医学部医学科	84	84	0	0	0	0	0
医学部保健学科	392	5	65	143	114	28	37
医学部心理支援科学科	70	0	0	0	34	24	12
理工学部	415	3	172	114	97	15	14
農学生命科学部	268	9	64	92	73	14	16
学部 合計	3,072	190	495	565	958	486	378
人文社会科学研究科	95	0	0	0	3	3	89
教育学研究科	79	0	0	0	22	15	42
医学研究科	241	0	2	3	6	52	178
保健学研究科	77	0	0	1	7	38	31
理工学研究科	479	0	2	6	18	51	402
農学生命科学研究科	160	0	0	3	21	32	104
地域共創科学研究科	111	0	0	2	6	12	91
地域社会研究科	28	0	0	0	0	3	25
大学院 合計	1,270	0	4	15	83	206	962

(2) 成績評価の分布等について

各学部・研究科等の成績評価の分布については、次のとおりである。

各学部・研究科の平均評点は、学部 2.73 に対して大学院 3.42 となっており、昨年度と同様、大学院の平均評点が少し高くなっている傾向にあるが、これは大学院授業科目が専門分野ごとに少人数で開講されている科目が中心となっているためと考えられる。

表Ⅱ-17-1 では、各学部・研究科間の評価の平均に着目した。評価の平均のバラツキをみると、学部間では平均値を中心として最大で 0.43、大学院間でも最大で 0.33 となっており、この程度の差異であれば十分に許容できる範囲内であると判断される。

表Ⅱ-17-1 各学部・研究科における成績分布と成績評価の平均

学部等 者数	履修	成績分布（人）					評価の 平 均	全体平 均との 比較
		秀	優	良	可	不可		
教養教育	24,779	5,862	10,158	5,594	2,250	915	2.72	-0.01
人文社会科学部	13,697	2,161	5,531	3,243	1,736	1,026	2.77	0.04
教育学部	11,781	1,950	6,297	2,323	871	340	2.83	0.10
医学部医学科	11,229	2,046	3,902	3,029	2,083	169	2.51	-0.22
医学部保健学科	14,480	3,881	5,605	3,141	1,668	185	2.78	0.05
医学部心理支援科学科	574	230	258	70	15	1	3.16	0.43
理工学部	18,550	3,915	6,493	3,876	2,584	1,682	2.49	-0.24
農学生命科学部	10,837	2,009	3,925	2,512	1,679	712	2.54	-0.19
小計（学 部）	105,927	22,054	42,169	23,788	12,886	5,030	2.73	—
人文社会科学研究科	191	89	87	10	4	1	3.55	0.13
教育学研究科	551	94	436	20	1	0	3.12	-0.30
医学研究科	978	691	208	46	29	4	3.70	0.28
保健学研究科	485	312	155	12	1	5	3.75	0.33
理工学研究科	1,758	728	770	162	55	43	3.46	0.04
農学生命科学研究科	895	324	477	71	20	3	3.18	-0.24
地域共創科学研究科	420	113	221	63	21	2	3.24	-0.18
地域社会研究科	50	19	31	0	0	0	3.39	-0.03
小 計（大学院）	5,328	2,370	2,385	384	131	58	3.42	—
合 計	111,255	24,424	44,554	24,172	13,017	5,088	—	—

表Ⅱ-17-2 各学部・研究科における成績分布と成績評価の平均（必修科目）

学部等 者数	履修	成績分布（人）					評価の 平均	全体平均との 比較
		秀	優	良	可	不可		
教養教育	12,002	2,690	4,979	2,914	1,098	321	2.65	-0.08
人文社会科学部	2,315	521	1,217	392	98	87	3.08	0.35
教育学部	10,483	1,732	5,464	2,151	811	325	2.78	0.05
医学部医学科	11,229	2,046	3,902	3,029	2,083	169	2.51	-0.22
医学部保健学科	13,316	3,493	5,174	2,955	1,554	140	2.72	-0.01
医学部心理支援科学科	459	200	207	43	9	0	3.29	0.56
理工学部	14,345	3,211	5,226	2,932	1,875	1,101	2.57	-0.16
農学生命科学部	7,855	1,425	2,791	1,809	1,289	541	2.50	-0.23
小計（学部）	72,004	15,318	28,960	16,225	8,817	2,684	2.76	—
人文社会科学研究科	11	1	6	3	1	0	2.64	-0.78
教育学研究科	551	94	436	20	1	0	3.12	-0.30
医学研究科	0	—	—	—	—	—	—	—
保健学研究科	352	203	132	11	1	5	3.71	0.29
理工学研究科	522	289	190	24	11	8	3.48	0.06
農学生命科学研究科	500	181	255	51	12	1	3.15	-0.27
地域共創科学研究科	262	65	123	57	17	0	3.30	-0.12
地域社会研究科	25	13	12	0	0	0	3.47	0.05
小計（大学院）	2,223	846	1,154	166	43	14	3.27	—
合計	74,227	16,164	30,114	16,391	8,860	2,698	—	—

表Ⅱ-17-3 各学部・研究科における成績分布と成績評価の平均（必修科目以外）

学部等 者数	履修	成績分布（人）					評価の 平均	全体平均との 比較
		秀	優	良	可	不可		
教養教育	12,777	3,172	5,179	2,680	1,152	594	2.80	0.07
人文社会科学部	11,382	1,640	4,314	2,851	1,638	939	2.54	-0.19
教育学部	1,298	218	833	172	60	15	3.05	0.32
医学部医学科	0	—	—	—	—	—	—	—
医学部保健学科	1,164	388	431	186	114	45	2.99	0.26
医学部心理支援科学科	115	30	51	27	6	1	2.91	0.18
理工学部	4,205	704	1,267	944	709	581	2.31	-0.42
農学生命科学部	2,982	584	1,134	703	390	171	2.59	-0.14
小計（学部）	33,923	6,736	13,209	7,563	4,069	2,346	2.74	—
人文社会科学研究科	180	88	81	7	3	1	3.56	0.14
教育学研究科	0	0	0	0	0	0	0.00	-3.42
医学研究科	978	691	208	46	29	4	3.70	0.28
保健学研究科	133	109	23	1	0	0	3.82	0.40
理工学研究科	1,236	439	580	138	44	35	3.43	0.01
農学生命科学研究科	395	143	222	20	8	2	3.19	-0.23
地域共創科学研究科	158	48	98	6	4	2	3.17	-0.25
地域社会研究科	25	6	19	0	0	0	3.29	-0.13
小計（大学院）	3,105	1,524	1,231	218	88	44	3.02	—
合計	37,028	8,260	14,440	7,781	4,157	2,390	—	—

表Ⅱ-18-1では、各学部・研究科間の成績分布の状況に着目した。他の学部・研究科と比較した場合、成績分布に一部偏りがあるように見えるが、学部内での均衡は適切であると認められるため、特に問題となるような点は見当たらない。

なお、「成績評価のガイドライン」においては、授業の評価方法は相対評価とすべきでなく、到達目標の達成度による絶対評価であるべきと示しているが、極端な偏りがみられる場合には、授業担当教員が授業の難易度等、授業内容及び評価方法を再考するべきとしている。これにより、各部局等においてそれぞれ成績評価について検証・確認を行い、必要な対応を行っていることを確認した。

表Ⅱ-18-1 各学部・研究科における成績分布の状況

学部等 者数	履修	成績分布 (%)				
		秀	優	良	可	不可
教養教育	24,779	23.7%	41.0%	22.6%	9.1%	3.7%
人文社会科学部	13,697	15.8%	40.4%	23.7%	12.7%	7.5%
教育学部	11,781	16.6%	53.5%	19.7%	7.4%	2.9%
医学部医学科	11,229	18.2%	34.7%	27.0%	18.6%	1.5%
医学部保健学科	14,480	26.8%	38.7%	21.7%	11.5%	1.3%
医学部心理支援科学科	574	40.1%	44.9%	12.2%	2.6%	0.2%
理工学部	18,550	21.1%	35.0%	20.9%	13.9%	9.1%
農学生命科学部	10,837	18.5%	36.2%	23.2%	15.5%	6.6%
計(学部)	105,927	20.8%	39.8%	22.5%	12.2%	4.7%
人文社会科学研究科	191	46.6%	45.5%	5.2%	2.1%	0.5%
教育学研究科	551	17.1%	79.1%	3.6%	0.2%	0.0%
医学研究科	978	70.7%	21.3%	4.7%	3.0%	0.4%
保健学研究科	485	64.3%	32.0%	2.5%	0.2%	1.0%
理工学研究科	1,758	41.4%	43.8%	9.2%	3.1%	2.4%
農学生命科学研究科	895	36.2%	53.3%	7.9%	2.2%	0.3%
地域共創科学研究科	420	26.9%	52.6%	15.0%	5.0%	0.5%
地域社会研究科	50	38.0%	62.0%	0.0%	0.0%	0.0%
計(大学院)	5,328	44.5%	44.8%	7.2%	2.5%	1.1%

表Ⅱ-18-2 各学部・研究科における成績分布の状況(必修科目)

学部等 者数	履修	成績分布 (%)				
		秀	優	良	可	不可
教養教育	12,002	22.4%	41.5%	24.3%	9.1%	2.7%
人文社会科学部	2,315	22.5%	52.6%	16.9%	4.2%	3.8%
教育学部	10,483	16.5%	52.1%	20.5%	7.7%	3.1%
医学部医学科	11,229	18.2%	34.7%	27.0%	18.6%	1.5%
医学部保健学科	13,316	26.2%	38.9%	22.2%	11.7%	1.1%
医学部心理支援科学科	459	43.6%	45.1%	9.4%	2.0%	0.0%
理工学部	14,345	22.4%	36.4%	20.4%	13.1%	7.7%
農学生命科学部	7,855	18.1%	35.5%	23.0%	16.4%	6.9%
計(学部)	72,004	21.3%	40.2%	22.5%	12.2%	3.7%
人文社会科学研究科	11	9.1%	54.5%	27.3%	9.1%	0.0%
教育学研究科	551	17.1%	79.1%	3.6%	0.2%	0.0%
医学研究科						
保健学研究科	352	57.7%	37.5%	3.1%	0.3%	1.4%
理工学研究科	522	55.4%	36.4%	4.6%	2.1%	1.5%
農学生命科学研究科	500	36.2%	51.0%	10.2%	2.4%	0.2%
地域共創科学研究科	262	24.8%	46.9%	21.8%	6.5%	0.0%
地域社会研究科	25	52.0%	48.0%	0.0%	0.0%	0.0%
計(大学院)	2,223	38.1%	51.9%	7.5%	1.9%	0.6%

表Ⅱ-18-3 各学部・研究科における成績分布の状況（必修科目以外）

学部等 者数	履修	成績分布（％）				
		秀	優	良	可	不可
教養教育	12,777	24.8%	40.5%	21.0%	9.0%	4.6%
人文社会科学部	11,382	14.4%	37.9%	25.0%	14.4%	8.2%
教育学部	1,298	16.8%	64.2%	13.3%	4.6%	1.2%
医学部医学科	0	—	—	—	—	—
医学部保健学科	1,164	33.3%	37.0%	16.0%	9.8%	3.9%
医学部心理支援科学科	115	26.1%	44.3%	23.5%	5.2%	0.9%
理工学部	4,205	16.7%	30.1%	22.4%	16.9%	13.8%
農学生命科学部	2,982	19.6%	38.0%	23.6%	13.1%	5.7%
計（学部）	33,923	19.9%	38.9%	22.3%	12.0%	6.9%
人文社会科学研究科	180	48.9%	45.0%	3.9%	1.7%	0.6%
教育学研究科	0	—	—	—	—	—
医学研究科	978	70.7%	21.3%	4.7%	3.0%	0.4%
保健学研究科	133	82.0%	17.3%	0.8%	0.0%	0.0%
理工学研究科	1,236	35.5%	46.9%	11.2%	3.6%	2.8%
農学生命科学研究科	395	36.2%	56.2%	5.1%	2.0%	0.5%
地域共創科学研究科	158	30.4%	62.0%	3.8%	2.5%	1.3%
地域社会研究科	25	24.0%	76.0%	0.0%	0.0%	0.0%
計（大学院）	3,105	49.1%	39.6%	7.0%	2.8%	1.4%

上記の他、各学部及び研究科で実施されていた取り組みを確認した。主な取り組みは以下のとおり。

- ・教養教育開発実践センター運営委員会の各部門長等が検証作業とその報告を行った。また、開講数の適正化のため、令和7年度後期は、申合せに基づき、履修者5名以下の科目については、最初の履修登録期限の履修者数で判定し、センター長から授業担当教員へ閉講か開講継続かを確認している。
- ・人文社会科学部では、学務委員会において、履修人数が50名以上の授業科目のうち、相対的に「不可」「秀」の割合が多くなっている授業科目について、到達目標の設定が過度に高（低）くなっていないかを精査し、状況に応じて、目標の設定や学生の理解度を向上させるための授業内容の見直しについて授業担当教員に検討を依頼している。
- ・教育学部では、授業担当教員に対して、履修者が20名以上のすべての授業科目について成績（評語）の分布を作成するとともに、成績分布が偏っている場合はその理由を記述するよう義務付けている。加えて、成績評価を含めた授業の開講状況を正副学務委員長が確認・検討している。
- ・医学部保健学科及び心理支援科学科では、CP及び成績評価ガイドラインに則して、公正・厳格で、かつ客観的に実施されているか成績分布を確認したうえで、到達目標が過度に低くなっていないか、高くなっていないかなどを、「秀」評価の取得率や「不可」評価率の状況を踏まえ、学務委員会で報告を行い、その結果を全教員に報告する体制をとっている。

- ・理工学部では、点検評価委員会において、全教科の「秀」評価の取得率について確認しており、取得率が極端に高い科目に対して、到達目標の設定が過度に低くなっているか等、シラバス・講義内容の改善を依頼している。なお、講義形態の科目に対して、秀の割合を2割程度とすることを周知した。
また、点検評価委員会において、全教科の「不可率」について確認し、極端に不可率が高い科目に対して、到達目標の設定が過度に高くなっているか確認し、状況に応じて、目標の設定や学生の理解度を向上させるための授業内容の見直しについて、点検評価委員会委員を通して授業担当教員に検討を依頼している。
- ・農学生命科学部では、受講生が20名以上の講義科目のうち、「秀」や「不可」の率や到達目標の設定が過度になっていないか担当教員に再確認を依頼しており、状況に応じて目標の設定や学生の理解度を向上させるための授業内容の見直しについて授業担当教員に依頼している。また、学科間で比較をし、特定の学科で評価に偏りが生じないように、各学科等において確認している。また、「実習、実験、演習」などでは、通常の「講義」とは異なり、成果をだすことを優先させているため成績は必ずしも正規分布にならないことがあることを各学科、学部附属センターにおいて再確認した。
- ・人文社会科学部では、履修者が8名以上の授業科目において、「秀」評価の取得率が30%以上または不可率が30%以上に該当する授業科目について、研究科運営会議で精査している。
- ・教育学研究科では、成績評価を含めた授業の開講状況を研究科運営委員長及び副学務委員長が確認・検討している。
- ・保健学研究科では、少人数で開講される科目が大半を占めており、大人数講義と異なり、極めて双方向型となることで、きめ細やかな指導が実現し、秀や優の比率が高くなる傾向があるため、成績が過度に偏ることや、特段の必要もなく集中講義で開講されることがないように、学事委員会から研究科全体へ継続してアナウンスを行うこととした。
- ・農学生命科学研究科では、成績分布データを基に、各コースにおいて分析を進め、評価の改善を図った。講義形式では受講生が10名以下の科目が多く、やむを得ない場合もあると思われるが、秀の割合が著しく高い科目もみられたため、到達目標の設定や講義の難易度を再点検し、成績評価の厳格化について改めて依頼した。また、秀の割合が高い科目について確認し、特定のコースで評価に偏りが生じないように、各コースにおいて確認した。

- ・地域社会研究科では、運営委員会において、成績分布の状況を確認しており、成績に極端な偏りが見られる科目については、状況に応じて、到達目標や授業内容の見直しを担当教員に依頼することとしている。
- ・地域共創科学研究科では、運営・入学試験委員会において、成績分布の状況を確認しており、成績に極端な偏りが見られる科目については、状況に応じて、到達目標や授業内容の見直しを担当教員に依頼することとしている。

項目 5 学生支援の状況

1 調査対象

各教育課程

2 調査方法

令和 6（2024）年度に実施した、学生に対する生活や進路、課外活動、経済面での援助等に関する相談・助言、支援について、教育課程毎に取り纏めた上で、9 月 19 日を期限として提出を求めた。

3 実施内容

学生の生活、健康、就職等進路に関する相談・助言体制及び各種ハラスメント等に関する相談・助言体制、部活動や課外活動への支援、経済面での援助の状況について検証した。なお、調査は各教育課程のほか、教育推進機構及び教育委員会が実施した事業についても行った。

4 実施結果

(1) 学生相談体制

学生の相談窓口については、全学的な窓口（カウンセラー、学生特別支援室、学生総合相談室、なんでも相談）のほか、各学部・研究科でも相談内容に応じて体制を複数整備し、学生の多様な相談に対応している。また、各種ハラスメントの相談窓口については、所属する学部・研究科以外の窓口でも相談を受け付ける体制としている。

表Ⅱ－１９ 学生相談の状況

相 談 区 分	令和 6(2024)年度	令和 5(2023)年度	増 減
学生生活全般・総合的相談	1,652 件	1,815 件	▲163
修学相談・学修支援	316 件	404 件	▲88
進路相談・就職支援	4,388 件	4,030 件	358
経済上	7 件	2 件	5
精神・健康上	180 件	187 件	▲7
ハラスメント	6 件	4 件	2
計	6,549 件	6,442 件	107

表Ⅱ-19では、学生生活全般に関する相談については1,652件で前年度から163件減少している。また修学相談についても316件と前年度から88件減少している。進路・就職支援に関する相談は、4,388件と前年度から358件増加しており、学生からの相談がもっとも多い区分となっている。その他、精神面・健康面での相談件数が180件と前年度から7件減少している。

総括して、全体の相談件数は6,549件で前年度から107件増加している。これは、教育学部における教員採用に伴う就職支援の相談件数が増加していたものと考えられる。しかしながら、本学の相談体制の充実や学生へのさまざまな支援策により、学生の修学面・精神面・健康面などの不安が解消されたものと考えられる。一方で、学生生活全般や進路に悩む学生が多いことから、引き続き、全学での相談支援体制を維持していく必要があると判断される。

このほか、学習不足により単位が修得できない学生の支援体制として学生修学支援室を設置し、前期及び後期の成績不振者を対象とした面談を令和6(2024)年度は28件、また、ピアサポーター(学生相談員)による学修相談について、履修登録時に相談員を増員して集中的に行う等して実施し、92件(昨年度162件)の相談に応じていた。

(2) 課外活動支援

令和6(2024)年度に本学が行った課外活動支援は、各団体に対して教育用の体育施設、サークル棟及び講義室の貸与のほか、活動上必要とする物品支援(883千円)や備品等の貸与を行っている。

課外活動支援は、各学部等においても行われている。理工学部では学生サークル「ロボティクス研究会」に講義室利用の便宜とロボットコンテストについてアドバイスをしていた。医学部医学科では学生自治会と学部長、学務委員長等が定期的に懇談会を開催し、医学部保健学科・心理支援科学科では利用団体の調整のための本町地区体育館使用調整会議を開催するなどし、課外活動支援を行っている。また、地域社会研究科では、大学院生の課外活動に対する支援を行っていた。

(3) 主な経済的支援

令和6(2024)年度に本学が行った主な経済的支援は、以下のとおりである。

① 入学科免除

区 分	種 類	件数	金額(千円)
学部新入生	高等教育の修学支援制度	195	42,206
被災学生(学部)	文科省補正予算	5	1,410
学部学生	学内予算(事業費)	5	1,128
大学院学生	学則分	119	14,100

② 授業料免除

区 分	種 類	件数	金額(千円)
学部学生	高等教育の修学支援制度	1,702	352,662
〃	運営費交付金(令和元年4月以前入学者)	7	1,049
私費外国人留学生	運営費交付金(〃)	5	1,250
被災学生(学部)	文科省補正予算	32	8,572
学部学生	学内予算(事業費)	9	2,232
大学院学生	運営費交付金+大学院振興事業費	565	83,942
被災学生(大学院)	文科省補正予算	2	536
新型コロナウイルス感染症に係る影響を受けて家計が急変した家庭の学生に対する授業料免除	文科省補正予算	-	-
卓越した学生に対する後期授業料免除	運営費交付金, 大学院振興事業費及びネットワン基金	36	9,377

③ 独自の奨学金

種 類	件数	金額(千円)
岩谷元彰弘前大学育英基金	30	6,000
トヨペット未来の青森県応援事業奨学金	4	1,000
弘前大学生活協同組合学生支援金給付事業	30	3,000

学生に対する相談体制、課外活動支援及び経済的支援については、学内規程等に基づいて適正に実施されている。

このほか、各学部等において、各組織の予算による以下の支援が行われていた。

人文社会科学研究科では文献複写・図書借用費用の補助支援(1件)、教育学研究科では青森県教育委員会からの派遣により入学した者等に対して入学料及び検定料相当額等の支援(8件)、医学研究科では入学料と1年半分の授業料支援(5件)、入学料と授業料の支援(1件)及び修学支援金の貸与(2件)、保健学研究科では博士前期課程の学生に5万円を研究費とした支援(5件)、理工学部・理工学研究科ではTA(155名、8,648千円)及びRA(30名、4,986千円)の雇用及び大学院生研究発表補助金支援(27件、1,704千円)、地域社会研究科では国内外学会の旅費及び大会参加費、現地調査旅費、論文投稿料、英文校閲料等の助成(10件)、地域共創科学研究科では国内学会で研究発表を行う際の旅費支給支援(19件)が行われていた。

(4) その他の支援

令和 4 (2022) 年度入学者から PC を必携化としたことに伴い、経済的事情などで PC を購入できない学生や、使用中の PC の故障・不具合等に対応するため、学務部教務課において学生貸し出し用の PC を整備している。

令和 6(2024)年度は、各学部・研究科の学生に対して、137 件の貸し出しを行っていた。

項目6 自主的学習環境の整備状況

1 調査対象

各教育課程

2 調査方法

各教育課程における自主的学習環境の整備状況について、教育課程毎に取り纏めた上で、9月19日を期限として提出を求めた。

3 実施内容

各学部・研究科等における、自習室、グループ討議室、情報機器室、教室・教育設備等の授業時間外使用等による自主的学習環境が十分に整備され、効果的に利用されているか、自習室等の室数、席数、利用時間、パソコンの設置台数等の状況について検証した。また、学生からの要望により改善・見直しを行った実績についても検証した。

4 実施結果

各学部・研究科等における自習室等の整備状況は、以下のとおりである。

表Ⅱ－20 各学部・研究科における自主的学習室等の整備状況

学部・研究科名	室数	座席数	PC台数	備考
教養教育開発実践センター	2	114	55	
人文社会科学部・人文社会科学研究科	26	346	42	
教育学部・教育学研究科	3	61	0	
医学部医学科・医学研究科	16	527	150	
医学部保健学科/心理支援科学科・保健学研究科	6	199	51	
理工学部・理工学研究科	3	248	0	
農学生命科学部・農学生命科学研究科	2	40	3	
地域共創科学研究科	3	60	2	
地域社会研究科	1	15	2	
計	63	1,622	309	

本学では、夜間・休日の建物への出入りを機械式警備方式により電気錠で管理・制限しており、自主的学習環境の利用時間は限られたものとなっているが、各学部においてセキュリティカードを貸与することにより、主に学部4年次や大学院生の自由な教育研究に対応している。

自習室については、表Ⅱ-20のほか、主にパソコンルームを備えた情報基盤センターや図書館及び図書館分室などが利用できるため、学部4年次及び大学院学生が授業時間外においても十分利用できる体制が確保されている。

また、令和 6（2024）年度は、前年度に引き続き、パソコンの必携化に伴う総合教育棟 203 講義室、303 講義室、304 講義室のコンセントの増設をした。

さらには、人文社会科学部において、ハイフレックス型授業に対応した視聴覚ルーム映像音響機器の更新や人文社会科学研究科において、新たに院生室にエアコンを設置、教育学部においては、1 階大教室の映像関連機器の更新、医学研究科においては、基礎校舎 2 階にある 2 つの実験室へのディスプレイ更新、病室等の再現や呼吸、心拍、症状をリアルタイムで再現するマネキンを設置するなど、臨場感ある学習環境施設であるシミュレーター実習室を新たに整備する等、学習環境の整備が進められている。

以上のことから、本学の自主的学習環境の整備状況は、適正であるものと判断される。

項目7 アンケート調査

7-1 在学生に対する授業評価アンケート（令和6年度）

1 調査目的

教員の授業改善及び質の保証の推進を目的として、前期及び後期開講の授業科目を対象に実施した。

2 実施期間

前期授業科目：令和6年7月17日(水)～7月23日(火)

後期授業科目：令和7年1月15日(月)～1月22日(水)

なお、予備期間として、その前後の1週間を設定。

3 調査対象科目

(1) 教養教育科目

実施期間に開講（非常勤講師の担当科目を含む）の授業科目（講義、演習）から、履修者数が5人以下の授業科目を除いた科目

(2) 専門教育科目

実施期間に開講（非常勤講師の担当科目を含む）の授業科目から、履修者数が5人以下の科目、卒業研究、臨地・臨床実習等（それに相当する科目）を除いた科目のうち、学部の裁量により調査対象として判断した授業科目

4 実施方法

人文社会科学部、教育学部、医学部保健学科、医学部心理支援科学科、理工学部、農学生命科学部の専門教育科目及び教養教育科目について、CAMPUSSQUARE を利用したオンライン方式により以下の方法で実施した。

① 授業担当教員は、授業中に10分程度の時間を設けて学生に回答させる。（オンデマンド形式の場合は、適宜、学生へ実施期間中に回答するよう指示。）

② 学生は授業担当教員の指示に従い回答する。

なお、医学部医学科の専門教育科目については、独自の設問からなるアンケート調査を実施した。設問内容が上記学部等のものと異なるため、同じ内容の設問のみを比較対象としている。

アンケート調査結果は各学部において分析し、各授業の改善に役立てるようしており、また、回収率などの集計結果はホームページに掲載し、授業科目ごとの評価結果は学内に限定してホームページに掲載している。

5 集計結果

(1) 回収率について

各授業におけるアンケートの回収率の平均は、以下のとおりである。

人文社会科学部は前期 63%、後期 65%、教育学部は前期 58%、後期 57%、医学部保健学科・心理支援科学科は前期 64%、後期 71%、理工学部は前期 61%、後期 53%、農学生命科学部は前期 74%、後期 68%、教養教育は前期 75%、後期 60%であり、以前のマークシート形式による実施と比較すると低い回収率であるため、回収率向上の取組が必要である。

なお、独自の調査票を利用して行った医学部医学科は前期 35%、後期 38%（昨年度前期 20%、後期 17%）であり、昨年度より回収率は増えたものの、依然低い水準である。本調査は教員の授業改善及び教育の質の保証の推進を目的とした重要な調査であることから、抜本的な改善を行い他学部並みの高い回収率が得られるよう実施願いたい。

(2) 授業の到達目標について

授業の到達目標及び成績評価方法の学生の認知度については、全ての学部等において設問としている。平均値は、前期、後期いずれも概ね 4.0 ポイント以上となっており、ほとんどの授業において授業目的が明確にされていることがうかがえる。

また、人文社会科学部等では「授業の到達目標をクリアできた」についても設問としており、いずれも 3.8 ポイント以上の結果となっていることから、授業が適切に行われていることが担保されていると判断できる。

(3) 学生の理解度を踏まえた授業の進行について

学生の理解度を確認しながら授業が進められていたかどうかについては、全ての学部等において設問としている。平均値は、前期、後期いずれも 3.8 ポイント以上となっており、ほとんどの授業が適切に実施されていると判断される。

(4) シラバスの内容に沿った授業の実施について

人文社会科学部等では、授業がシラバスの内容に沿って行われていたかを設問としている。平均値は、前期、後期いずれも 4.2 ポイント以上となっていることから、本学の授業が授業計画に沿って適切・着実に行われ、教育の質が高い水準で担保されていると判断される。

(5) 授業の満足度について

授業の満足度については、全ての学部等において設問としている。平均値は、前期、後期いずれも概ね 4.0 ポイント以上となっている。このことから、授業が適切に行われており、本学の教育の質が高い水準で維持されていると判断される。

(6) 全体の平均値について

全ての設問に対する平均値については、全ての学部等において前期、後期いずれも 4.0 ポイント以上となっている。このことから、本学の教育の質が十分に担保されていると判断される。

(7) 最終的な評価

授業の満足度をみると、評価が 3.5 以上の授業を平均的な水準にあるものと設定した場合、平均に満たない各学部の科目数は 2,211 科目中 86 科目、全体に占める割合は 4% であり、授業のほとんどが満足であると回答されていることから、本学の教育の水準は担保されているものと判断できる。

また、全項目の平均値をみると、平均に満たない各学部等の科目数は 65 科目、全体に占める割合は 2% である。よって、ほとんどの授業が平均的な水準を超えていると考

えられることから、本学の教育の質が十分に担保されているものと判断される。

令和6年度 授業評価アンケート集計結果

前期

項目	② 授業外の勉強内容について、 具体的な指示指導があった	③ 到達目標、成績評価方法及び採点基準 を知っている	④ 授業の到達目標をクリアできた	⑤ 理解度を確認しながら授業が進められており、質問の機会が設けられていた	⑥ 配布資料、スライド等の活用など、学生の理解を引き出す工夫がされていた	⑦ 先生の説明は、聞き取りやすかった（声の大きさ、話の速さ、言葉づかい）	⑧ 板書は、読み取りやすかった（黒板の使い方、字の読みやすさ、字数、書きやすさ）	⑨ シラバスの内容に沿って授業が行われていた	⑩ 開始・終了時間は守られており、出席記録の時間も設けられていた	⑪ 教室内の学習設備に問題はなかった（視聴覚機器、器具、機材等の設置、衛生管理、安全への配慮）	⑫ 全体的に授業に満足できた	平均値
教育課程												
人文社会科学部	3.90	4.23	3.92	4.02	4.22	4.18	4.08	4.29	4.40	4.33	4.20	4.16
教育学部	4.00	4.20	4.00	4.12	4.24	4.26	4.18	4.31	4.46	4.42	4.28	4.22
医学部保健学科	3.91	4.13	3.98	4.08	4.19	4.20	4.10	4.31	4.34	4.33	4.21	4.16
医学部心理支援科学科												
理工学部	3.85	4.19	3.89	3.87	4.05	4.06	3.98	4.30	4.42	4.31	4.08	4.09
農学生命科学部	3.78	4.14	3.83	3.85	4.09	4.05	3.99	4.22	4.33	4.26	4.04	4.05
教養教育	3.79	4.16	3.97	4.01	4.21	4.22	4.11	4.32	4.47	4.39	4.20	4.17
項目		① 授業における到達目標は明確だったか	② 授業内容は理解できたか	③ 授業の配布資料は分かりやすかったか（資料は見やすかったか）	④ 授業のスライド（板書）は見やすかったか	⑤ 授業は、聞き取りやすかったか（声の大きさ、速さなど）	⑥ 授業のスライド（板書）は見やすかったか				⑧ 授業を担当した教員について、あなたの期待に対する満足度は概ねどの程度か	平均値
教育課程												
医学部医学科		4.45	4.21	⑥4.18 ⑦4.25	③4.18 ④4.20	4.31	4.20				4.24	4.25

注1： 人社、教育、保健、心理、理工、農生、教養の回答選択肢

「5. 強くそう思う 4. そう思う 3. どちらともいえない 2. そう思わない 1. 全くそう思わない」

注2： 数値は、授業科目ごとの受講者数を考慮した加重平均値

注3： 医学部医学科は、講義科目のみの集計結果

令和6年度 授業評価アンケート集計結果

後期

項目	② 授業外の勉強内容について、具体的な指示指導があった	③ 到達目標、成績評価方法及び採点基準を知っている	④ 授業の到達目標をクリアできた	⑤ 理解度を確認しながら授業が進められており、質問の機会が設けられていた	⑥ 配布資料、スライド等の活用など、学生の理解を引き出す工夫がされていた	⑦ 先生の説明は、聞き取りやすかった（声の大きさ、話の速さ、言葉づかい）	⑧ 板書は、読み取りやすかった（黒板の使い方、字の読みやすさ、字数、書きやすさ）	⑨ シラバスの内容に沿って授業が行われていた	⑩ 開始・終了時間は守られており、出席登録の時間も設けられていた	⑪ 教室内の学習設備（視聴覚機器、器具、教材等の設置、衛生管理、安全への配慮）	⑫ 全体的に授業に満足できた	平均値
教育課程												
人文社会科学部	3.99	4.25	3.98	4.15	4.27	4.28	4.15	4.32	4.43	4.40	4.27	4.23
教育学部	4.06	4.25	4.06	4.22	4.31	4.34	4.25	4.37	4.44	4.42	4.29	4.27
医学部保健学科	4.01	4.13	3.98	4.14	4.23	4.22	4.15	4.31	4.36	4.35	4.23	4.19
医学部心理支援科学科	4.11	4.22	3.93	4.32	4.40	4.36	4.15	4.39	4.38	4.51	4.32	4.28
理工学部	3.95	4.17	3.86	3.95	4.07	4.03	3.98	4.30	4.40	4.34	4.05	4.10
農学生命科学部	3.92	4.18	3.87	4.03	4.21	4.16	4.10	4.28	4.39	4.33	4.15	4.15
教養教育	3.99	4.16	4.00	4.12	4.22	4.23	4.17	4.31	4.41	4.38	4.16	4.20
項目		① 授業における到達目標は明確だったか	② 授業内容は理解できたか	③ 授業の配布資料は分かりやすかったか（資料は授業後にも）	④ 授業の配布資料は分かりやすかったか（資料は授業後にも）	⑤ 授業は、聞き取りやすかったか（声の大きさ、速さなど）	⑥ 授業の配布資料は分かりやすかったか（資料は授業後にも）	⑦ 授業は、聞き取りやすかったか（声の大きさ、速さなど）	⑧ 授業の配布資料は分かりやすかったか（資料は授業後にも）	⑨ 授業の配布資料は分かりやすかったか（資料は授業後にも）	⑩ 授業の配布資料は分かりやすかったか（資料は授業後にも）	平均値
医学部医学科		4.31	4.15	⑥4.12 ⑦4.20	③4.09 ④4.16	4.34	4.16				4.18	4.19

注1：人社、教育、保健、心理、理工、農生、教養の回答選択肢

「5.強く思う 4.そう思う 3.どちらともいえない 2.そう思わない 1. 全くそう思わない」

注2：数値は、授業科目ごとの受講者数を考慮した加重平均値

注3：医学部医学科は、講義科目のみの集計結果

前期 「満足度・理解度」

区分等 教育課程	全体的に授業に満足できた		
	最低値	最高値	評価が3.50未満の科目数
人文社会科学部	3.42	5.00	195 科目 中 2 科目
教育学部	2.80	5.00	178 科目 中 3 科目
医学部保健学科	2.73	5.00	128 科目 中 6 科目
医学部心理支援科学科			
理工学部	2.90	5.00	169 科目 中 9 科目
農学生命科学部	2.43	5.00	105 科目 中 5 科目
教養教育	2.14	5.00	380 科目 中 11 科目

後期 「満足度・理解度」

区分等 教育課程	全体的に授業に満足できた		
	最低値	最高値	評価が3.50未満の科目数
人文社会科学部	2.10	5.00	186 科目 中 2 科目
教育学部	2.50	5.00	186 科目 中 7 科目
医学部保健学科	2.38	5.00	104 科目 中 3 科目
医学部心理支援科学科	4.00	4.83	16 科目 中 0 科目
理工学部	2.42	5.00	158 科目 中 11 科目
農学生命科学部	3.50	4.83	89 科目 中 0 科目
教養教育	2.72	5.00	246 科目 中 12 科目

区分等 教育課程	授業の内容を理解できたか（理解しやすい工夫など）		
	最低値	最高値	評価が3.50未満の科目数
医学部医学科	1.00	5.00	38 科目 中 5 科目
	授業を担当した教員について、あなたの期待に対する満足度は概ねどの程度か		
	最低値	最高値	評価が3.50未満の科目数
	1.00	5.00	38 科目 中 5 科目

区分等 教育課程	授業の内容を理解できたか（理解しやすい工夫など）		
	最低値	最高値	評価が3.50未満の科目数
医学部医学科	3.20	4.80	33 科目 中 3 科目
	授業を担当した教員について、あなたの期待に対する満足度は概ねどの程度か		
	最低値	最高値	評価が3.50未満の科目数
	3.00	4.80	33 科目 中 2 科目

前期 「全項目平均値」

教育課程等	最低値	最高値	評価が3.50未満の科目数
人文社会科学部	3.27	5.00	195 科目 中 1 科目
教育学部	3.06	4.91	178 科目 中 1 科目
医学部医学科	1.00	5.00	38 科目 中 5 科目
医学部保健学科	3.10	5.00	128 科目 中 4 科目
医学部心理支援科学科			
理工学部	3.17	4.79	169 科目 中 4 科目
農学生命科学部	2.83	4.73	105 科目 中 3 科目
教養教育	2.89	5.00	380 科目 中 6 科目

後期 「全項目平均値」

教育課程等	最低値	最高値	評価が3.50未満の科目数
人文社会科学部	2.85	5.00	186 科目 中 2 科目
教育学部	2.55	5.00	186 科目 中 2 科目
医学部医学科	2.96	4.74	33 科目 中 2 科目
医学部保健学科	3.27	4.68	104 科目 中 2 科目
医学部心理支援科学科	4.00	4.63	16 科目 中 0 科目
理工学部	2.94	4.73	158 科目 中 5 科目
農学生命科学部	3.51	4.82	89 科目 中 0 科目
教養教育	3.11	5.00	246 科目 中 6 科目

7-2 卒業生・企業等アンケート（令和7年度）

1 調査対象

本調査は、卒後・修了3年後となる令和3（2021）年度卒業生等及び当該卒業生等（一時的な仕事に就いた者、医学部卒業生、教員は除く。）が就職している企業等を対象とした。

なお、従来は2人以上の就職企業等のみを対象としていたが、前回の調査から全ての就職企業等を対象とした。

2 実施方法

教育委員会で承認された「卒業生等・企業等アンケート調査」実施要項に基づき、以下のとおり実施している。

(1) アンケートの実施時期

7月に、卒業生へアンケート依頼はがき及びメール（アンケート回答フォームのQRコード、URLを記載）、企業へアンケート依頼封書（アンケート回答フォームのQRコード、URLを記載）を郵送し、回答はWeb上で行うシステムとして実施。

(2) アンケート項目

卒業生アンケートは、14の選択式設問と1の自由記述で構成。質問内容は、「基本事項」3項目、「在学中の教育や学生支援」4項目、「学生生活で感じたこと、身についたと思うこと」4項目、「在学生のため、今後の教育や学生支援に必要と思われること」4項目となっている。

企業等アンケートは、基礎項目と調査項目の構成で、全部で7つの設問。3つの調査項目はすべて選択式となっている。

(3) アンケートの集計結果については、教育委員会において報告後、各対象部局である全ての学部・研究科等において分析・検証されている。

3 回収率

卒業生アンケート 18.95%（261件/1,377人）、企業等アンケート 33.80%（169件/500件）と、いずれも回収率が低いため、総体的な検証・判断が難しくなっている。卒業生アンケートについては昨年度 20.85%から約 1.9 ポイント減少した。

企業等アンケートについては、昨年度の 31.85%から約 1.95 ポイント増となった。これは、企業等あての郵送物を、はがきから、封書に入れた鑑付きの文書としたことで、企業側のアンケートに対する回答意識を高めることができたものと考えられる。

今後も引き続き、回収率を向上させるための効果的な手法を検討していくことが必要である。

なお、卒業生アンケートの内訳は以下のとおりであった。

- ・学部 222 人（人文 47、教育 27、医学 13、保健 34、理工 57、農生 44）
- ・研究科 39 人（人社 0、教育 5、医学 3、保健 4、理工 16、農生 7、地社 1、地共 3）

4 集計結果

(1) 卒業生アンケート

ア 就職・進学先等が入学時に希望していた進路と一致するかの設問では、「希望どおり」79人（30%）、「大体希望どおり」77人（30%）であり、「希望どおりではないが満足している」75人（29%）を含めると89%が満足としていた。回収率が低いため総合的に判断することはできないが、昨年度比で約2ポイント減となっているが、本学の入学者受け入れの方針と卒業認定・学位授与の方針との連続性・整合性が担保されていることの見安となっている。

問3 就職・進学先は、入学時に希望していた進路と一致しますか。

所属	希望どおり	大体希望どおり	希望どおりではないが満足している	希望どおりではなく満足していない	希望する進路がなかった
人文社会科学部	10	16	13	2	6
教育学部	9	6	11		1
医学部医学科	8	4	1		
医学部保健学科	17	11	4	1	1
理工学部	14	16	18	3	6
農学生命科学部	8	12	20	1	3
教育学研究科	5				
医学研究科	2				1
保健学研究科	2	1			1
理工学研究科	2	7	5		2
農学生命科学研究科	1	1	3	2	
地域社会研究科	1				
地域共創科学研究科		3			
総計	79	77	75	9	21
比率	30.3%	29.5%	28.7%	3.5%	8.0%

イ 在学中の教育内容の満足度に関する設問では、「満足」86人（33%）、「どちらかといえば満足」133人（51%）と全体で84%であった。昨年度比で約3ポイント増となっており、本学の教育が概ね適正であることの見安となっている。

問4 教育内容に、全体として満足でしたか。

所属	満足だった	どちらかといえ ば満足だった	一概に言えない	どちらかといえば不 満足だった	不満足だった
人文社会科学部	21	21	5		
教育学部	8	14	3	1	1
医学部医学科	1	7	2	2	1
医学部保健学科	12	16	4	1	1
理工学部	13	36	6	1	1
農学生命科学部	15	23	6		
教育学研究科	5				
医学研究科	1		2		
保健学研究科	1		2	1	
理工学研究科	6	8	2		
農学生命科学研究科	2	5			
地域社会研究科	1				
地域共創科学研究科		3			
総計	86	133	32	6	4
比率	32.9%	51.0%	12.3%	2.3%	1.5%

ウ 各学部・研究科等においても回収率を考慮して分析・検証を行っている。

上述のように、各教育課程の教育内容については高い評価が得られていることを確認できたが、教養教育開発実践センターでは、国際共通語としての英語能力及び国際性に係る能力が身についたとする回答が30%程度と低いことから、さらなる改善が必要であるとしている。また、大学全体として、就職活動への支援は十分だったかの設問に対し、約半数が十分だったとしているものの、やや低い傾向にあるものと判断しており、引き続き充実させる取り組みを検討・実施していくことが求められていることを掲げている。

(2) 企業等アンケート

ア 採用にあたってどのような点を重視したかという設問については、「課題探求・問題解決に係る基礎的な力」85%、「社会人としての基礎的な力」91%となっており、前年度に実施した調査と同様の内容が注目されていることが確認された。このことから、本学の卒業生に対しては、汎用性のある基礎力が高く期待されていることがうかがわれる。

イ 本学が掲げる卒業認定・学位授与の方針に係る知識や資質が、本学卒業生に身についていると思われるかを問う設問については、「身に付いている」「どちらかといえば身に付いている」とした回答が設問に掲げた4つの力についてそれぞれ64%～78%

となっている。このことから、本学の卒業認定・学位授与の方針が適正であることが概ね担保されているものと判断される。

ウ 自由記述では、前回行った調査と同様、本学卒業生の活躍ぶりをつたえるものや、採用活動に対する謝辞がほとんどであった。多くの企業が、今後も本学の卒業生に対して高く期待する意見を述べており、このことから、就職支援活動を通じた企業等との関係性が引き続き良好であることがうかがわれる。

7-3 各部局等におけるアンケートの実施状況（令和6年度）

1 調査対象

令和6年度に実施した以下のアンケート調査結果及び検証結果等

- ・新入生に対する志望動機・時期等の入学時調査
- ・在学生に対する生活状況、就学状況、進路希望等を把握するための学生調査
- ・在学生に対する授業評価のアンケート
- ・卒業生に対する在学時における大学の満足度等を把握するための卒業時調査
- ・卒後3年後の卒業生に対する学生生活への満足度や学修成果に関する調査
- ・卒後3年後の本学卒業者を雇用している企業等に対する本学卒業生への評価等に関する調査

2 アンケート実施部局等

- (1) 教養教育開発実践センター：授業評価アンケート、教養教育に関する学生アンケート
- (2) 人文社会科学部・人文社会科学研究科：授業評価アンケート、研究生活アンケート
- (3) 教育学部・教育学研究科：授業評価アンケート
- (4) 医学部医学科・医学研究科：授業評価アンケート、卒業生アンケート、修了生アンケート
- (5) 医学部保健学科/心理支援科学科・保健学研究科：授業評価アンケート、入学時アンケート、卒業生アンケート、修了生アンケート
- (6) 理工学部・理工学研究科：授業評価アンケート、卒業生アンケート、修了生アンケート
- (7) 農学生命科学部・農学生命科学研究科：授業評価アンケート、新入生アンケート
- (8) 地域共創科学研究科：授業評価アンケート、新入生アンケート、修了生アンケート
- (9) 地域社会研究科：授業評価アンケート、新入生アンケート、修了生アンケート

3 アンケートの実施結果

各部局が実施したアンケートの内容等及び調査結果の検証については、以下のとおりである。

- (1) 教養教育開発実践センターでは、全学部の1年生に対し、教養教育に関する学生アンケートを前期及び後期に実施している。前期では、入学時のガイダンスの説明や履修相談、後期では基礎ゼミナールの内容等を設問とし、当該事項について検証を行っている。回答率は、前期 72.7% (1,009 人/1,388 人)、後期 34.5% (480 人/1,391 人) で、前期は昨年度 (76.0%) から減少しており、後期も昨年度 (45.5%) と減少している。
- (2) 人文社会科学研究科では、前期及び後期に研究生活アンケートを行い、問題となる回答について研究科運営会議で検証している。また、前期及び後期に授業評価ア

ンケートを実施している。

- (3) 教育学部では、前期及び後期に授業評価アンケートを行い、評価が 3.0 未満 (5.0 満点) の授業について検証を行っている。
- (4) 医学部医学科では、前期及び後期に独自に授業評価アンケートを行っているほか、卒業時に卒業生アンケート (回収率 100% (129 人/129 人)) を実施し、学務委員会において検証している。
- (5) 医学部保健学科及び心理支援科学科では、各専攻において入学時アンケートを実施し、志願した理由等について検証している。また、卒業生アンケートを実施し、教育内容の満足度、各種支援等について質問を行い、検証している。
- (6) 理工学部では、卒業時に卒業生アンケートを実施し、教育内容やカリキュラムの満足度、就職活動支援及び進路等について検証を行っている。
- (7) 農学生命科学部では、入学時に新入生アンケートを実施し、入試関連等について検証を行っている。
- (8) 地域共創科学研究科では、前期及び後期に授業評価等アンケート (回収率：前期 50.0% (32 件/64 件)、後期 47.6% (30 件/63 件)) を実施し、各授業内容や研究指導について検証を行っている。また、入学時に新入生アンケートを実施し、入試関連等について検証を行っている。さらに、修了時には修了生アンケートを実施し、指導体制や学習目標の達成度等について検証を行っている。
- (9) 地域社会研究科では、3 月 (回収率 67% (2 件/3 件)) に修了生アンケートを実施し、教育内容、教育カリキュラム及び指導方法等について検証を行っている。また、入学時 (春季及び秋季) に新入生アンケートを実施し、入試関連等について検証を行っている。

Ⅲ 参考資料

弘前大学アセスメント・ポリシー（学部）

（令和４年１０月１４日学長裁定第 77 号）

弘前大学は、各学部が卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に定める学位取得の要件に基づき、教育目標の到達度、学生の満足度などの学修成果に関してアセスメント（測定・評価）を実施し、教育課程の有効性について検証を行い、本学の教育改革、教育方法の改善及び学修支援等に活用します。

1 実施単位

アセスメントの単位は、機関レベル（大学全体）、教育課程レベル（各学部）、科目レベル（各授業）とする。

2 実施体制

アセスメントは、機関レベルでは教育推進機構、教育課程レベル及び科目レベルでは各学部等において、それぞれ実施する。

3 実施方法

(1) アセスメントは、以下について、アセスメント・チェックリストにより実施する。

- ・入学、進学、留年、退学等及び卒業・進路の状況
- ・教育活動、研究活動及び社会との連携等の状況
- ・カリキュラムチェック
- ・授業の開講、成績評価の状況
- ・学生支援の状況
- ・学修環境の整備状況
- ・アンケート調査（入学時（志望動機等）、在学時（授業評価、生活状況、進路希望等）、卒業時（大学の満足度等）、卒後３年経過時（DPの有効性、就職先企業等に対する卒業生の評価等））
- ・その他（アセスメントに有効な取組等）

(2) アセスメントの結果は、教育推進機構会議等に報告し、本学の教育方法の改善等に活用する。

・アセスメント・チェックリスト (学部)

単位	調査・指標	時期	調査対象	調査内容	調査方法	実施機関	調査結果の活用方法
機関レベル	新入生アンケート	3月	入学予定者	志望理由等	Webアンケート	機構	入試改善
	VELC TEST	4月・7月・2月	1年次生	英語能力の把握	外部試験	機構	教育プログラム改善
	在籍等の状況	7月	各学部	入学、進学、留年、退学等及び卒業・進路の状況	組織評価の結果を利用	機構	DP検証、教育支援等
	教育・研究活動等	7月	各学部	教育・研究活動及び社会との連携等の状況	組織評価の結果を利用	機構	DP検証、教育支援等
	カリキュラムチェック	3月	各授業	DPとの整合	シラバスの確認	機構 (教養科目)	教育プログラム検証
	授業評価アンケート	7月・2月	各授業	授業方法等	学務情報システム	機構	授業方法等検証
	卒業時アンケート	3月	4年次生	カリキュラムの有効性 就業等の状況	学務情報システム	機構	教育プログラム検証 キャリア支援検証
	卒業3年後アンケート	6月	卒業3年後卒業生	DPの検証等	回答Webサイトを郵送	機構	DP検証
	就職先企業等アンケート	6月	卒業3年後卒業生	卒業生の評価 大学教育への要望等	回答Webサイトを郵送	機構	DP検証
	その他のアンケート	随時	各学部	実施部局による	実施結果を利用	機構	教育支援
	在籍等の状況	7月	各学部	入学、進学、留年、退学等及び卒業・進路の状況	学部独自	学部	DP検証、教育支援
	カリキュラムチェック	3月	各授業	DPとの整合	シラバスの確認	学部	教育プログラム検証
	授業評価アンケート	随時	各授業	授業方法等	学部独自	独自に調査を実施する学部	授業方法等検証
教育課程レベル	授業の開講・成績評価	随時	各授業	開講科目数・GPA等	統一調査フォーム	学部	授業方法等検証
	資格・免許等	随時	在学生	TOEIC等の成績 各資格・免許の取得状況	適宜	学部	教育プログラム検証
	卒業時アンケート	3月	4年次生	カリキュラムの有効性 就業等の状況	適宜	独自に調査を実施する学部	教育プログラム検証 キャリア支援検証
	卒業3年後アンケート	6月	卒業3年後卒業生	DPの検証等	機構調査結果を利用	学部	DP検証
科目レベル	就職先企業等アンケート	6月	卒業3年後卒業生	卒業生の評価 大学教育への要望等	機構調査結果を利用	学部	DP検証
	履修状況等	随時	各授業	履修者数・出席	適宜	学部	教育プログラム検証
	カリキュラムチェック	3月	各授業	ルーブリック・科目ナンバリング	シラバスの確認	学部	教育プログラム検証
	授業評価アンケート	随時	各授業	授業方法等	学部独自	独自に調査を実施する学部	授業方法等検証
	成績評価	随時	各授業	成績分布	統一調査フォーム	学部	授業方法等検証
	資格・免許等	随時	在学生	TOEIC点数 各資格・免許の取得状況	適宜	学部	教育プログラム検証

弘前大学アセスメント・ポリシー（研究科）

（令和４年 10 月 14 日学長裁定第 78 号）

弘前大学は、各研究科が卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に定める学位取得の要件に基づき、教育目標の到達度、学生の満足度などの学修成果に関してアセスメント（測定・評価）を実施し、教育課程の有効性について検証を行い、本学の教育改革、教育方法の改善及び学修支援等に活用します。

1 実施単位

アセスメントの単位は、機関レベル（大学全体）、教育課程レベル（各研究科）、科目レベル（各授業）とする。

2 実施体制

アセスメントは、機関レベルでは教育推進機構、教育課程レベル及び科目レベルでは各研究科等において、それぞれ実施する。

3 実施方法

(1) アセスメントは、以下について、アセスメント・チェックリストにより実施する。

- ・進学、留年、退学等及び修了・進路の状況
- ・教育活動、研究活動及び社会との連携等の状況
- ・カリキュラムチェック
- ・授業の開講、成績評価の状況
- ・学生支援の状況
- ・研究環境の整備状況
- ・アンケート調査（在学時（授業評価、生活状況、進路希望等）、修了時（大学（研究指導）の満足度等）、修了後３年経過時（ＤＰの有効性、就職先企業等に対する修了生の評価等））
- ・その他（アセスメントに有効な取組等）

(2) アセスメントの結果は、教育推進機構会議等に報告し、本学の教育方法の改善等に活用する。

・アセスメント・チェックリスト（研究科）

単位	調査・指標	時期	調査対象	調査内容	調査方法	実施機関	調査結果の活用方法
機関レベル	在籍等の状況	7月	各研究科	入学、進学、留年、退学等及び修了・退路の状況	組織評価の結果を利用	機構（入試課）	DP検証、教育支援
	教育・研究活動等	7月	各研究科	教育・研究活動及び社会との連携等の状況	組織評価の結果を利用	機構	DP検証、教育支援等
	カリキュラムチェック	3月	各授業	DPとの整合	シラバス等の確認	機構	教育プログラム検証
	授業評価アンケート	7月・2月	各授業	授業方法等	学務情報システム	機構	授業方法等検証
	修了時アンケート	3月	修了生	カリキュラムの有効性 就業等の状況	学務情報システム	機構	教育プログラム検証 キャリア支援検証
	修了3年後アンケート	6月	修了3年後修了生	DPの検証等	回答Webサイトを郵送	機構	DP検証
	就職先企業等アンケート	6月	修了3年後修了生	修了生の評価 大学段階教育への要望等	回答Webサイトを郵送	機構	DP検証
	その他のアンケート	随時	各研究科	実施部局による	実施結果を利用	機構	教育支援
	在籍等の状況	7月	各研究科	収容率、留年、退学等及び修了・進路の状況	研究科独自	研究科	DP検証、教育支援
	カリキュラムチェック	3月	各授業	DPとの整合	シラバスの確認	研究科	教育プログラム検証
教育課程 レベル	授業評価アンケート	随時	各授業	授業方法等	研究科独自	独自に調査を実施 する研究科	授業方法等検証
	授業の開講・成績評価	随時	各授業	開講科目数等	統一調査フォーム	研究科	授業方法等検証
	資格・免許等	随時	在学生	TOEIC等の成績 各資格・免許の取得状況	適宜	研究科	教育プログラム検証
	修了時アンケート	3月	修了予定学生	カリキュラムの有効性 就業等の状況	適宜	独自に調査を実施 する研究科	教育プログラム検証
	修了3年後アンケート	6月	修了3年後修了生	DPの検証等	機構調査結果を利用	研究科	DP検証
	就職先企業等アンケート	6月	修了3年後修了生	修了生の評価 大学段階教育への要望等	機構調査結果を利用	研究科	DP検証
	研究指導	随時	各授業	研究計画	適宜	研究科	教育プログラム検証
	カリキュラムチェック	3月	各授業	ルーブリック・科目ナンバリング	シラバスの確認	研究科	教育プログラム検証
	授業評価アンケート	随時	各授業	授業方法等	研究科独自	独自に調査を実施 する研究科	授業方法等検証
	成績評価	随時	各授業	成績分布	統一調査フォーム	研究科	授業方法等検証

アセスメント・ポリシーの運用に関する要項

(令和4年10月14日 学長裁定第79号)

第1 趣旨

この要項は、弘前大学アセスメント・ポリシー（学部）及び弘前大学アセスメント・ポリシー（研究科）の運用に関して、必要な事項を定める。

第2 実施方法等

- 1 アセスメントに係る調査（以下「調査」という。）は、各学部、各研究科及び教育推進機構教養教育開発実践センター（以下「学部等」という。）を対象とする。
- 2 以下に掲げる項目については、教育推進機構長（以下「機構長」という。）から学部等に対して依頼する調査により行う。
 - (1) カリキュラムチェック
 - (2) 授業の開講，成績評価の状況
 - (3) 学生支援の状況
 - (4) 学修環境等の整備状況
 - (5) その他アセスメントに有効な取組等
- 3 機構長は、学部等から報告された調査結果について、全学的見地から検証し、評価結果を取りまとめ、学長に報告する。
- 4 学長は、前項の報告により改善すべき事項があった場合は、教育推進機構において改善計画を取りまとめさせ、該当する学部等に改善計画に基づいた措置を講ずることを命ずる。
- 5 前項の該当する学部等は、講じた措置の結果について、学長に報告する。

第3 その他

その他調査に関し必要な事項については、別に定める。

附 則

この要項は、令和4年10月14日から実施する。